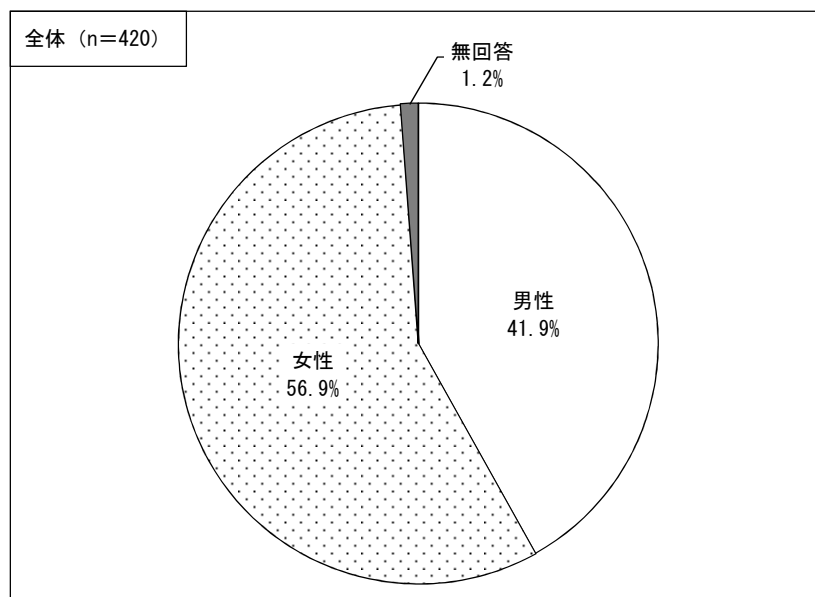


町民アンケート 調査結果

※ アンケートの集計結果における「無回答」には、無効な回答も含めています。

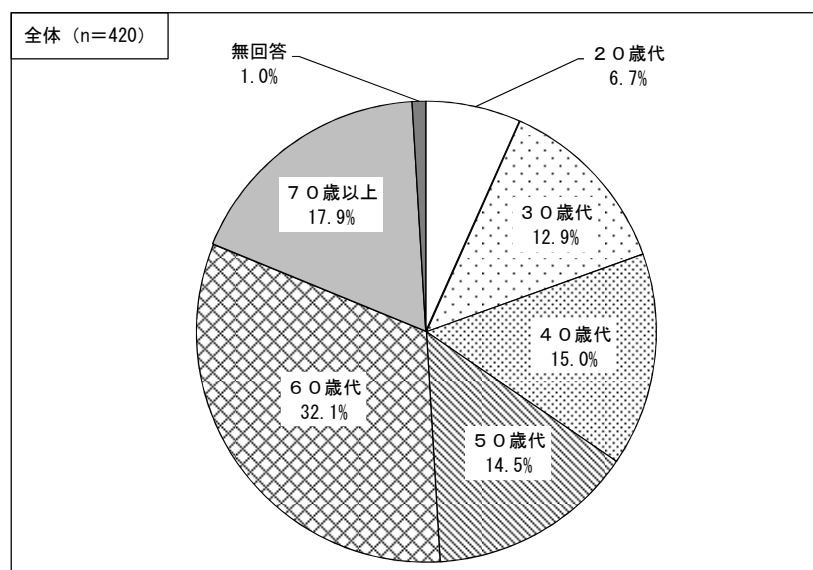
1. あなたやあなたのご家族について

問 1-1



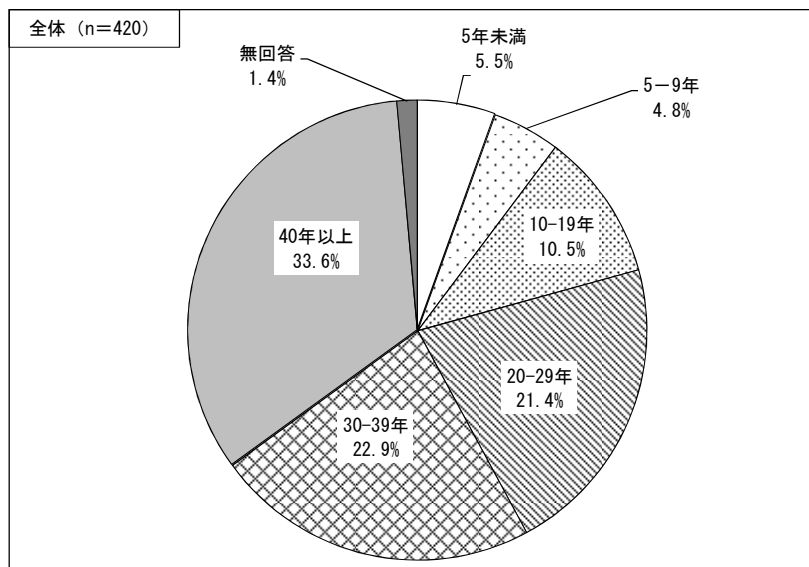
「男性」が41.9%、「女性」が56.9%と、女性の割合が多くなっています。

問 1-2



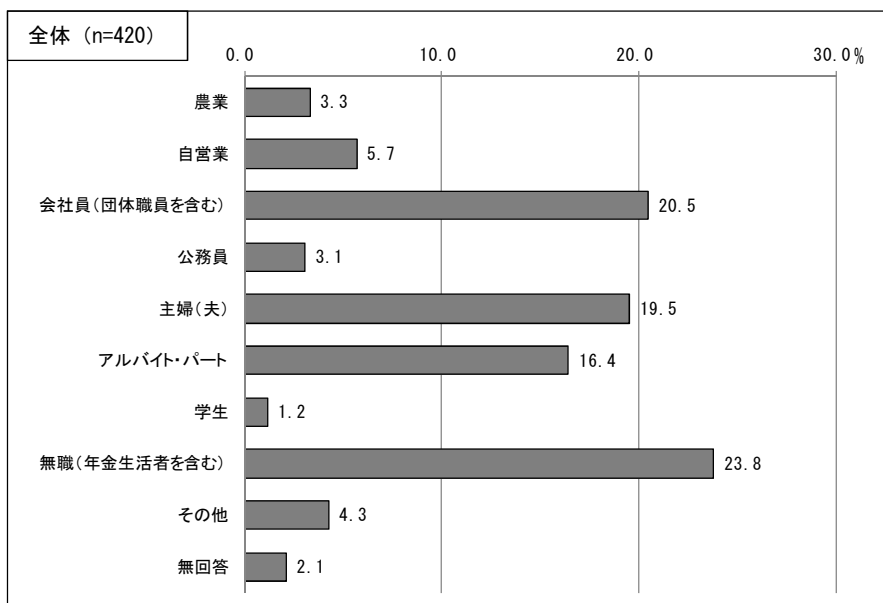
割合が高いのは「60歳代」が32.1%と最も多く、次いで「70歳以上」(17.9%)、「40歳代」(15.0%)の順となっており、60歳代以上の回答者が特に多くなっています。

問 1-3



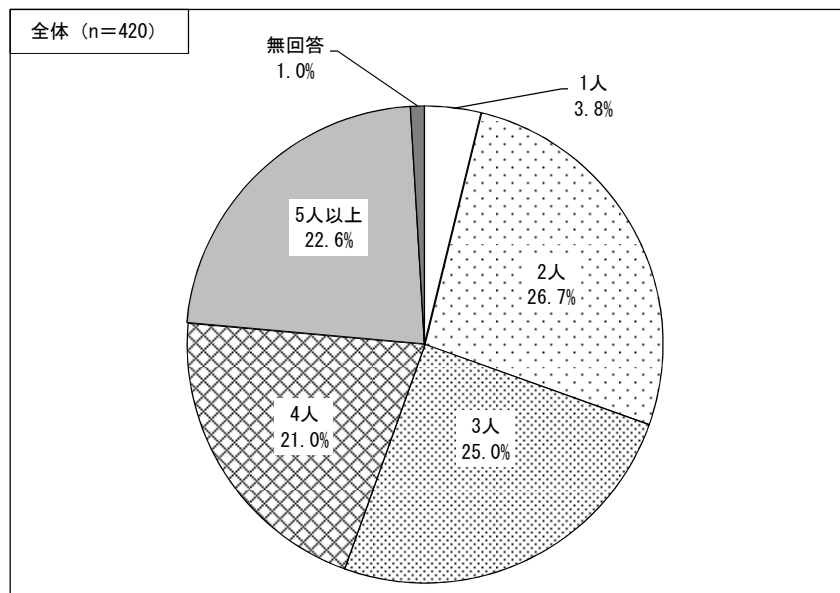
居住年数については、「40年以上」が33.6%と最も多く、次いで「30年-39年」(22.9%)、「20年-29年」(21.4%)の順となっています。8割近くの回答者が20年以上、川島町に居住されていることになります。

問 1-4



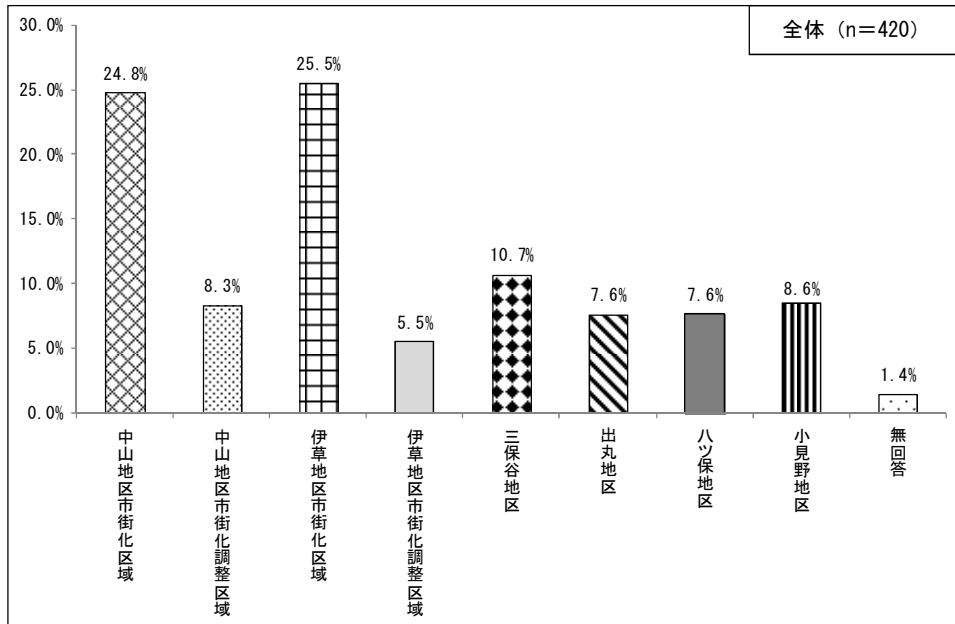
職業については、「無職(年金生活者を含む)」(23.8%)、「会社員(団体職員を含む)」(20.5%)、「主婦(夫)」(19.5%)の順となっています。

問 1-5



家族の人数については、「2人」(26.7%)、「3人」(25.0%)、「5人以上」(22.6%)の順となっています。

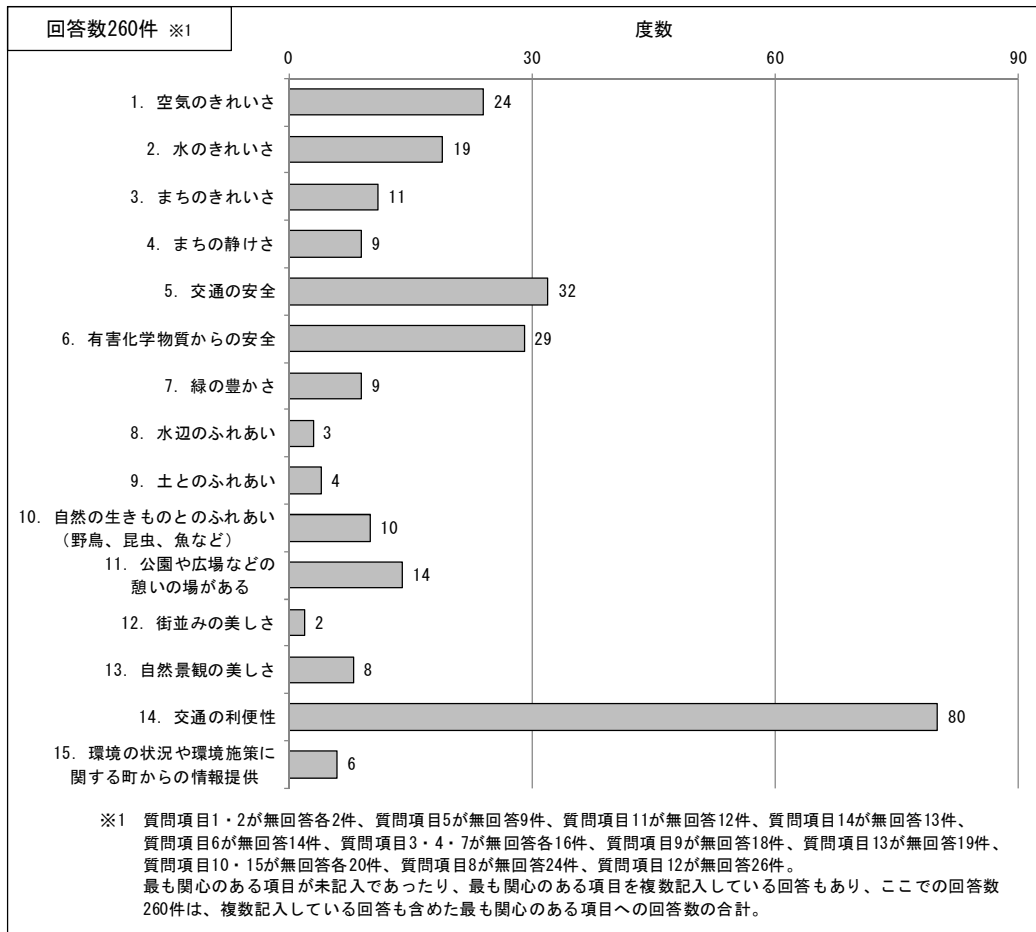
問 1-6



居住地については、「伊草地区市街化区域」が25.5%と最も多く、次いで「中山地区市街化区域」(24.8%)、「三保谷地区」(10.7%)の順となっています。

2. あなたの身近な環境に対する意識について

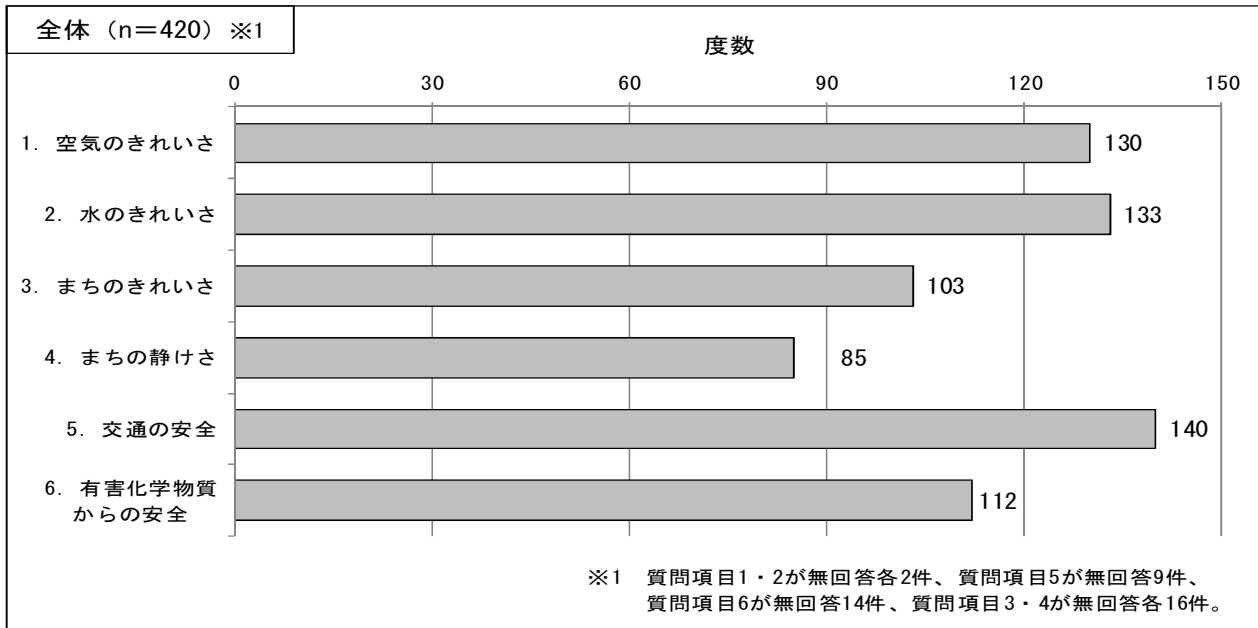
- 最も関心のある環境



すべての項目の中で最も関心のあるものとして、「交通の利便性」が80件と最も多くなっており、その次に多い項目が「交通の安全」(32件)であることから、交通環境に対する関心が特に高くなっていることがわかります。

(1) 生活環境について

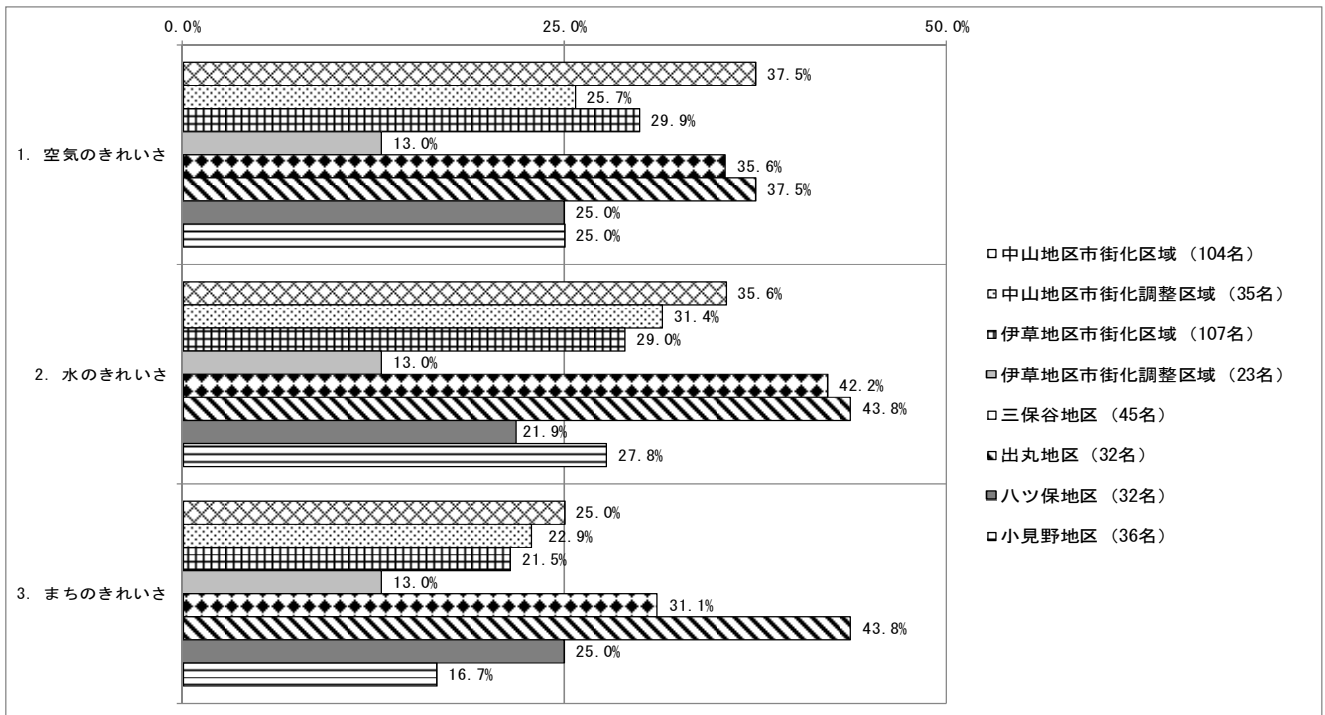
■ 関心度



生活環境の関心度については、「交通の安全」（140件）、「水のきれいさ」（133件）、「空気のきれいさ」（130件）の順に関心度が高くなっています。「まちの静けさ」を除く項目で、関心度が100件を超えています。

生活環境の関心度について、回答者の居住地区別の相違を以下に示します（各居住地区の回答者数に占める関心を持っている人の割合）。

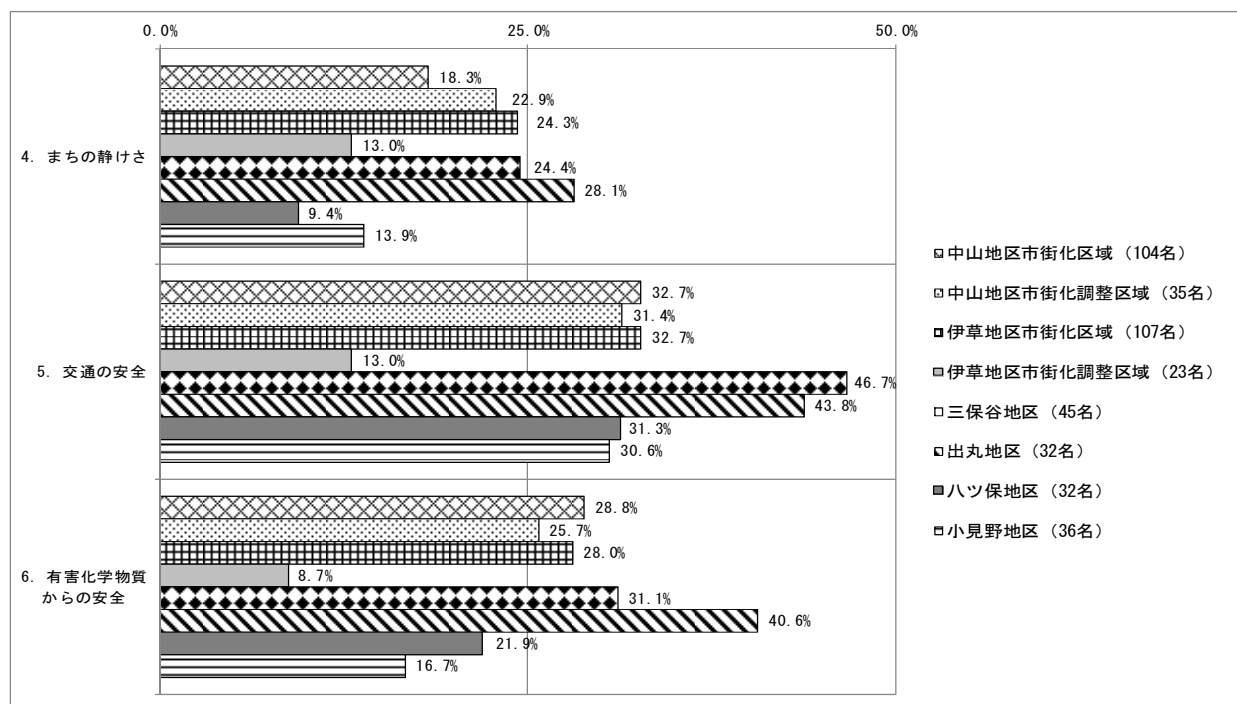
下図は、きれいさ（質問項目1～3）に関する居住地区別の関心度の違いを示した図です。



「空気のきれいさ」と「水のきれいさ」については、中山地区市街化区域、三保谷地区、出丸地区において、3分の1を超える回答者が関心を持っています。

「まちのきれいさ」については、関心を持っている回答者の割合が最も高いのは出丸地区（43.8%）であり、次いで三保谷地区（31.1%）、中山地区市街化区域・八ツ保地区（25.0%）の順となっています。

下図は、静けさ・安全（質問項目4～6）に関する居住地区別の関心度の違いを示した図です。

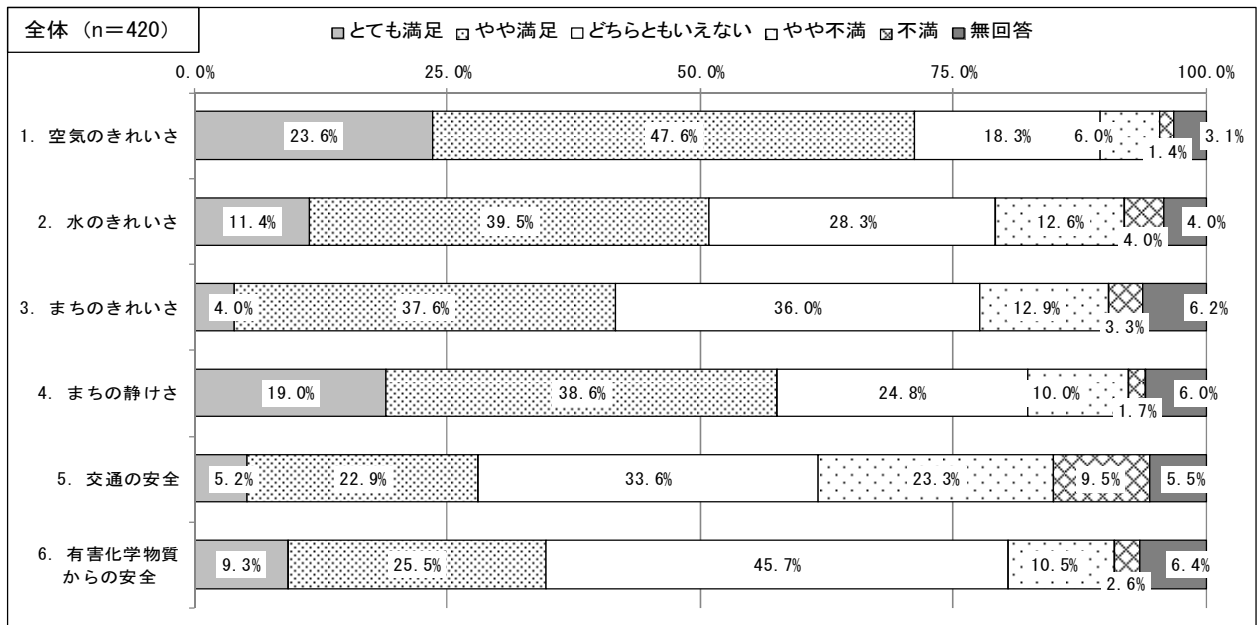


「まちの静けさ」については、すべての地区で関心を持っている回答者の割合が30%より低くなっています。

「交通の安全」については、伊草地区市街化調整区域を除く地区で30%を超える回答者が関心を持っていますが、その中で三保谷地区（46.7%）と出丸地区（43.8%）の割合が他地域よりも高くなっています。

「有害化学物質からの安全」については、出丸地区（40.6%）が関心を持っている回答者の割合が最も高くなっています。

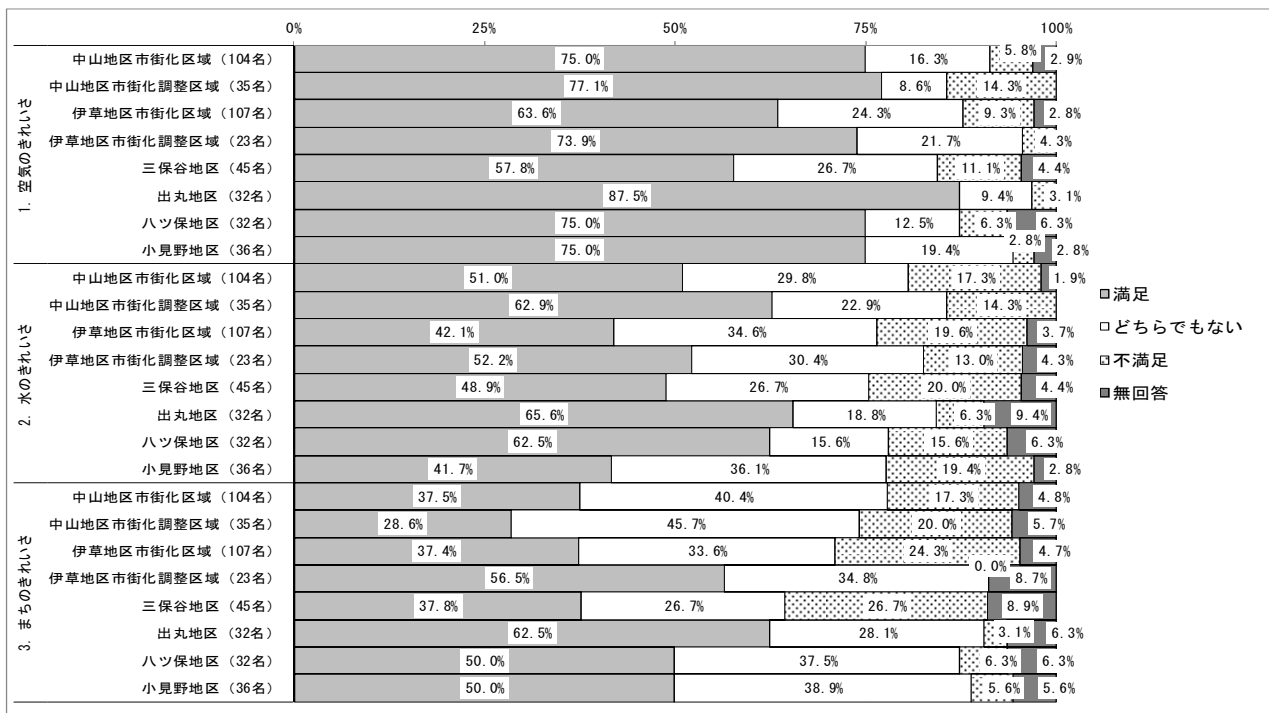
■ 満足度



生活環境の満足度に関しては、「とても満足」と「やや満足」の合計が、「空気のきれいさ」(71.2%)、「まちの静けさ」(57.6%)、「水のきれいさ」(50.9%)の順で高くなっており、自然やまちの静けさに対する満足度が高くなっています。一方、関心度が高かった「交通の安全」については、「とても満足」と「やや満足」の合計が28.1%と最も低くなっています。

生活環境の満足度について、回答者の居住地区別に、各居住地区の回答者数に占める満足度（「とても満足」と「やや満足」の合計）の割合と不満足度（「不満」と「やや不満」の合計）の割合の相違を以下に示します。

下図は、きれいさ（質問項目1～3）に関する居住地区別の満足度の違いを示した図です。

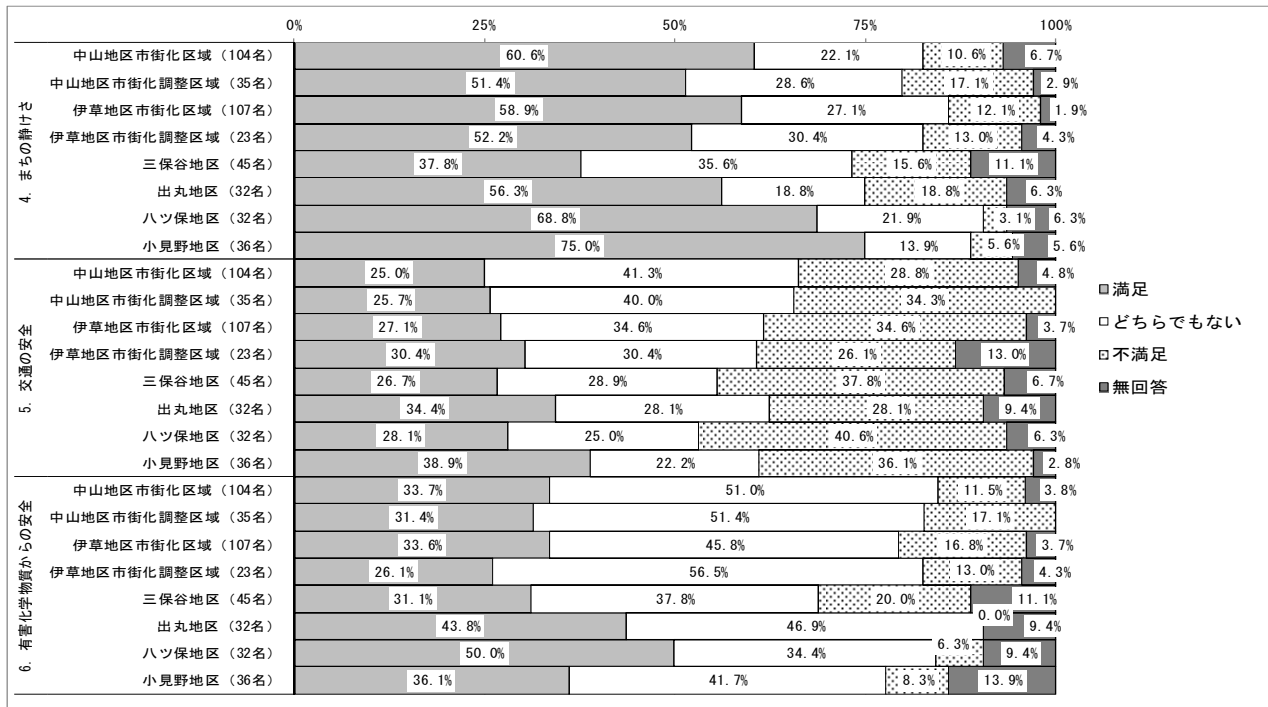


「空気のきれいさ」については、すべての地区で「満足」の割合が50%を超えています。出丸地区において「満足」が87.5%と特に高くなっています。

「水のきれいさ」については、出丸地区が65.5%と最も満足度が高く、次いで中山地区市街化調整区域(62.9%)、八ツ保地区(62.6%)の順となっています。

「まちなかのきれいさ」についても、出丸地区(62.5%)の満足度が最も高くなっており、出丸地区におけるきれいさに関する生活環境の満足度が高いことが見てとれます。

下図は、静けさ・安全(質問項目4~6)に関する居住地区別の満足度の違いを示した図です。

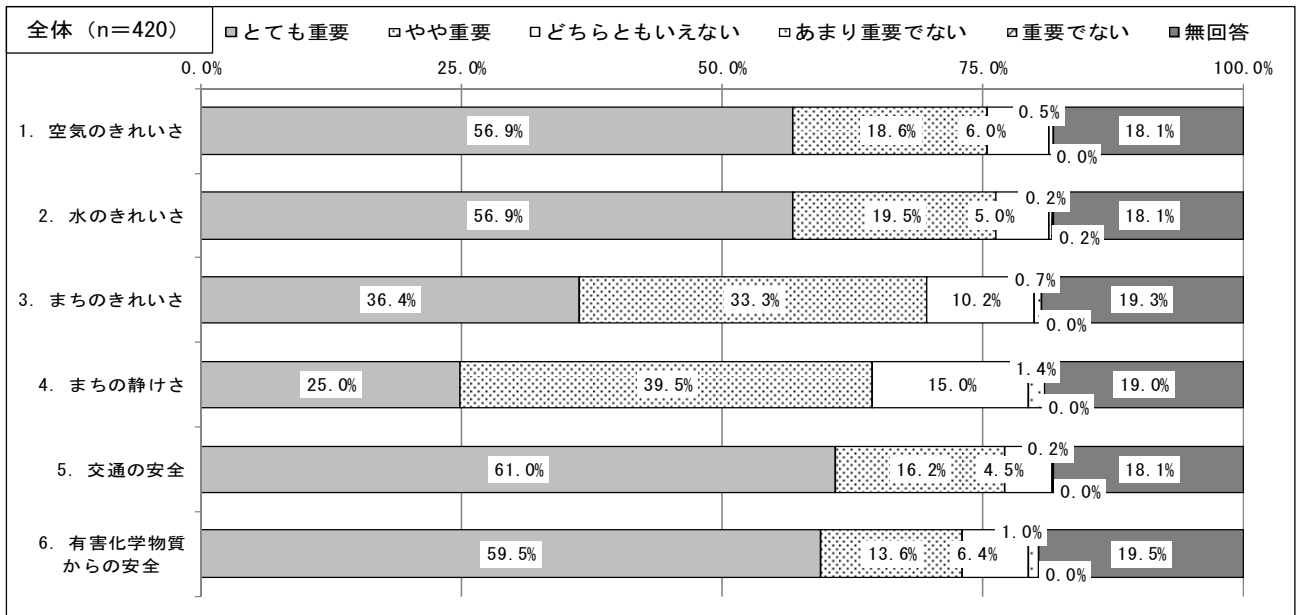


「まちなかの静けさ」については、「満足」に関しては小見野地区が75.0%と最も高く、三保谷地区が37.8%と最も低くなっています。「不満足」に関しては、出丸地区(18.8%)と中山地区市街化調整区域(17.1%)が他の地区と比べて高くなっています。

「交通の安全」については、生活環境の他の質問項目と比較して、「不満足」の割合が高くなっています。「不満足」に関しては、八ツ保地区が40.6%と最も高く、次いで三保谷地区(37.8%)、小見野地区(36.1%)の順で高くなっています。

「有害化学物質からの安全」については、「満足」に関して八ツ保地区が50.0%と最も高く、次いで出丸地区(43.8%)、小見野地区(36.1%)の順となっています。

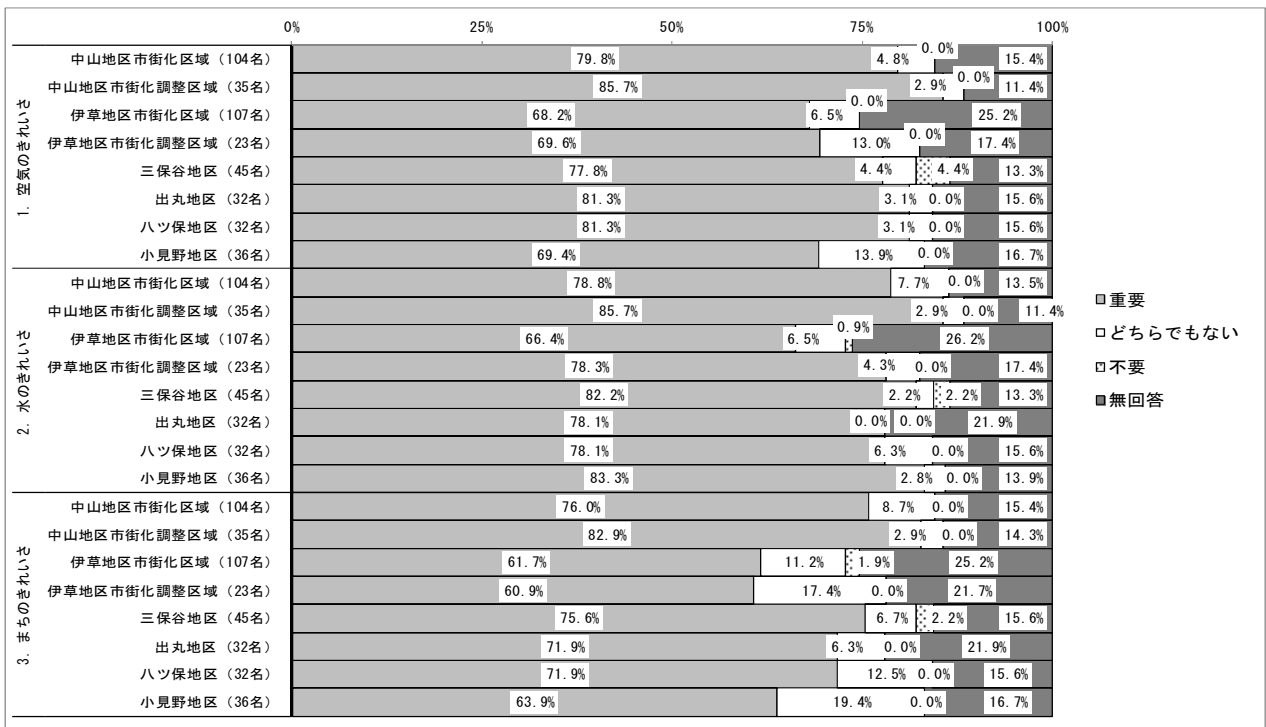
■ 重要度



生活環境の重要度に関しては、「とても重要」と「やや重要」の合計が「交通の安全」が77.1%と最も高く、次いで「水のきれいさ」(76.4%)、「空気のきれいさ」(75.5%)の順となっています。

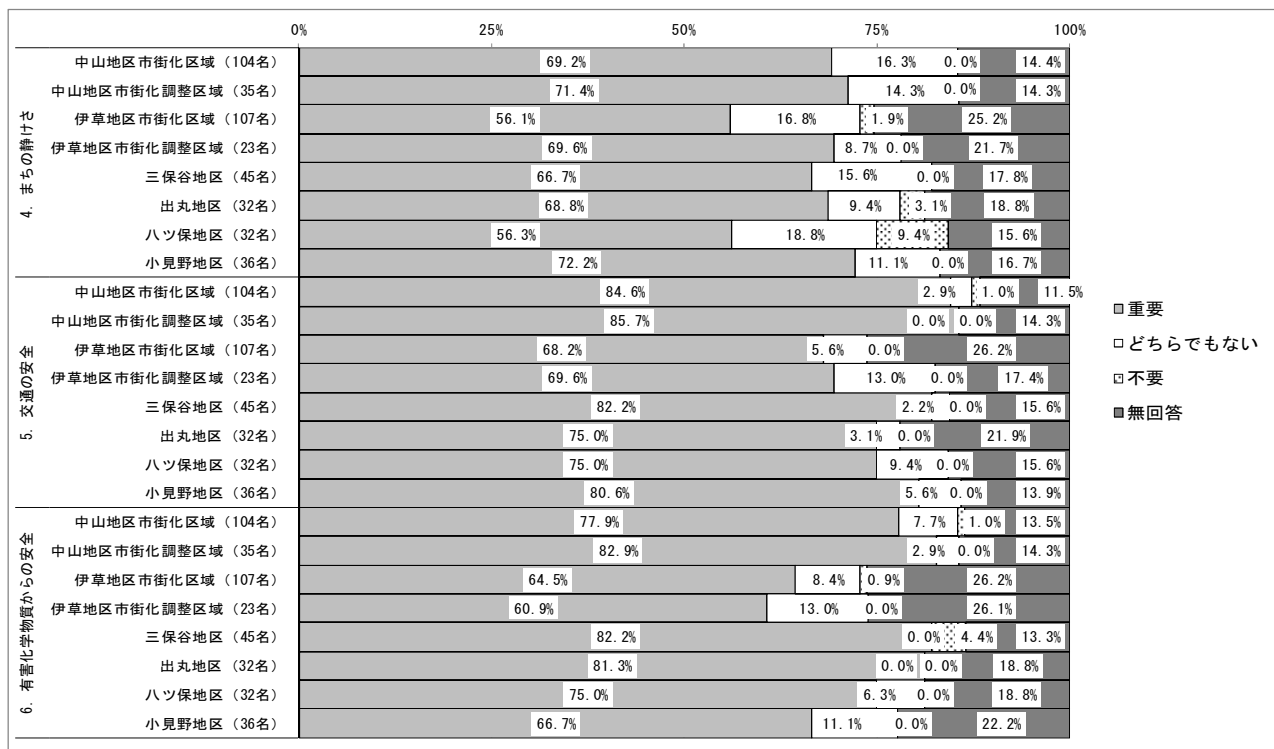
生活環境の重要度について、回答者の居住地区別に、各居住地区の回答者数に占める重要度（「とても重要」と「やや重要」の合計）の割合と不要度（「重要ではない」と「あまり重要でない」の合計）の割合の相違を以下に示します。

下図は、きれいさ（質問項目1～3）に関する居住地区別の重要度の違いを示した図です。



「空気のきれいさ」、「水のきれいさ」、「まちのきれいさ」について、重要であるとの回答の割合はすべての地区で60%以上であり、地区によらず「重要」と考える回答者が大半であることがわかります。

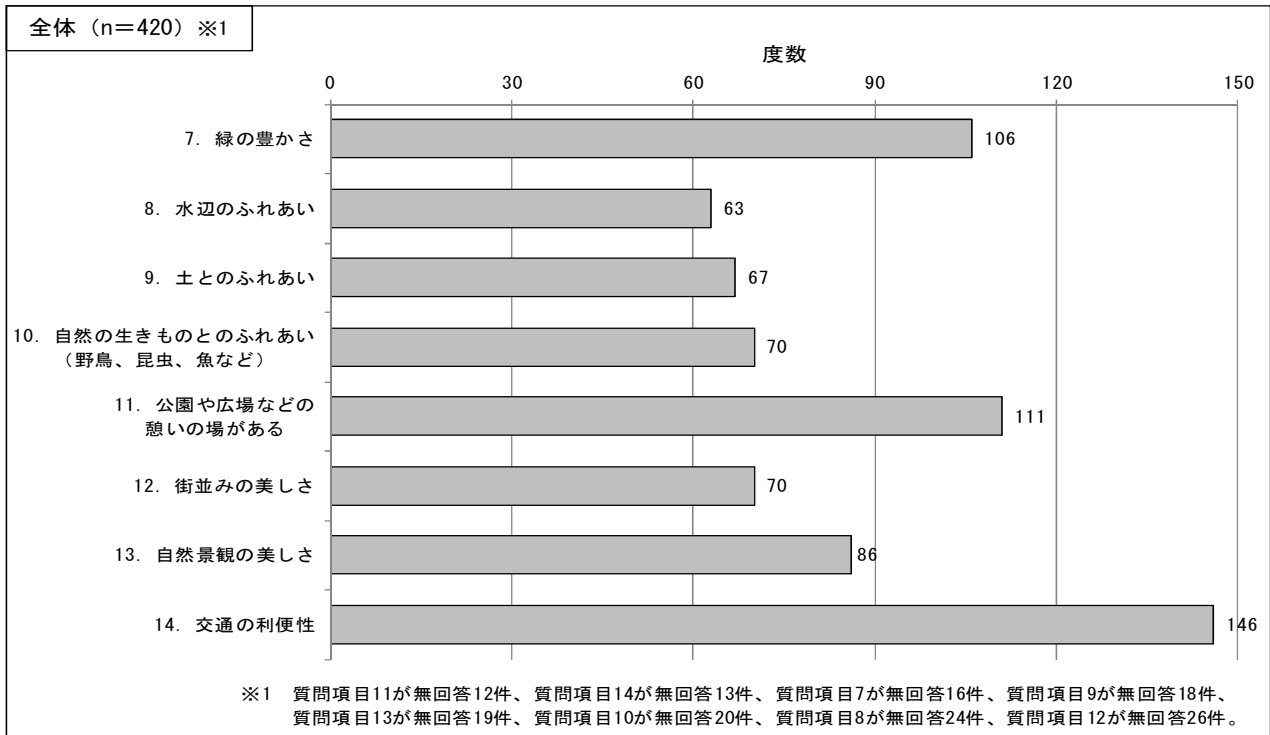
下図は、静けさ・安全（質問項目4～6）に関する居住地区別の重要度の違いを示した図です。



「まちの静けさ」、「交通の安全」、「有害化学物質からの安全」についても、ほとんどの地域で「重要」が60%を超えています。生活環境に関するすべての質問項目に関して、地域に関係なく重要であると考えている回答者が多いことがわかります。

(2) 自然環境や快適環境について

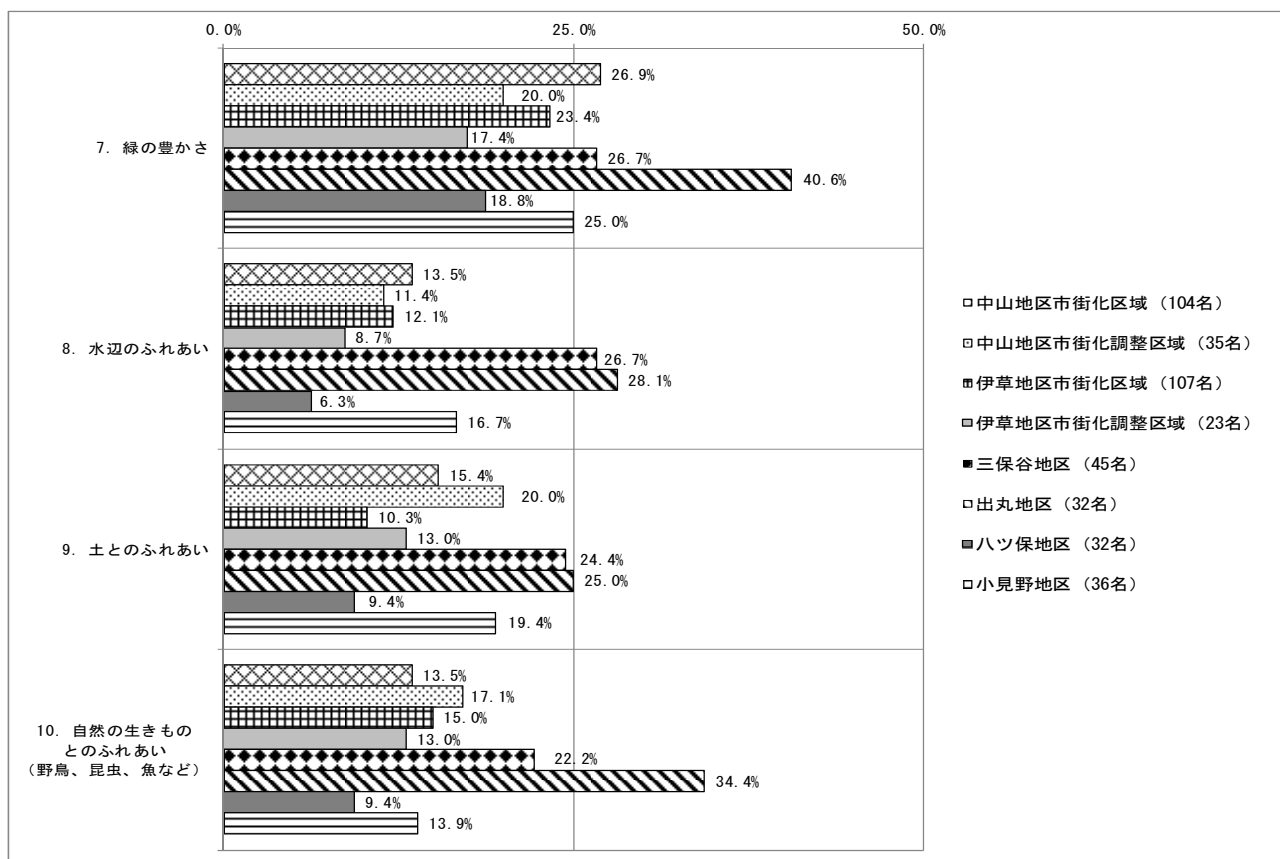
■ 関心度



自然環境や快適環境の関心度については、「交通の利便性」が146件と最も関心度が高くなっています。また、町民の憩いの場（「公園や広場などの憩いの場がある」（111件））や、自然環境の良さ（「緑の豊かさ」（106件）、「自然景観の美しさ」（86件））に対する関心度も高くなっています。

自然環境や快適環境の関心度について、回答者の居住地区別の相違を以下に示します（各居住地区の回答者数に占める関心を持っている人の割合）。

下図は、自然の豊かさ・ふれあい（質問項目 7～10）に関する居住地区別の関心度の違いを示した図です。

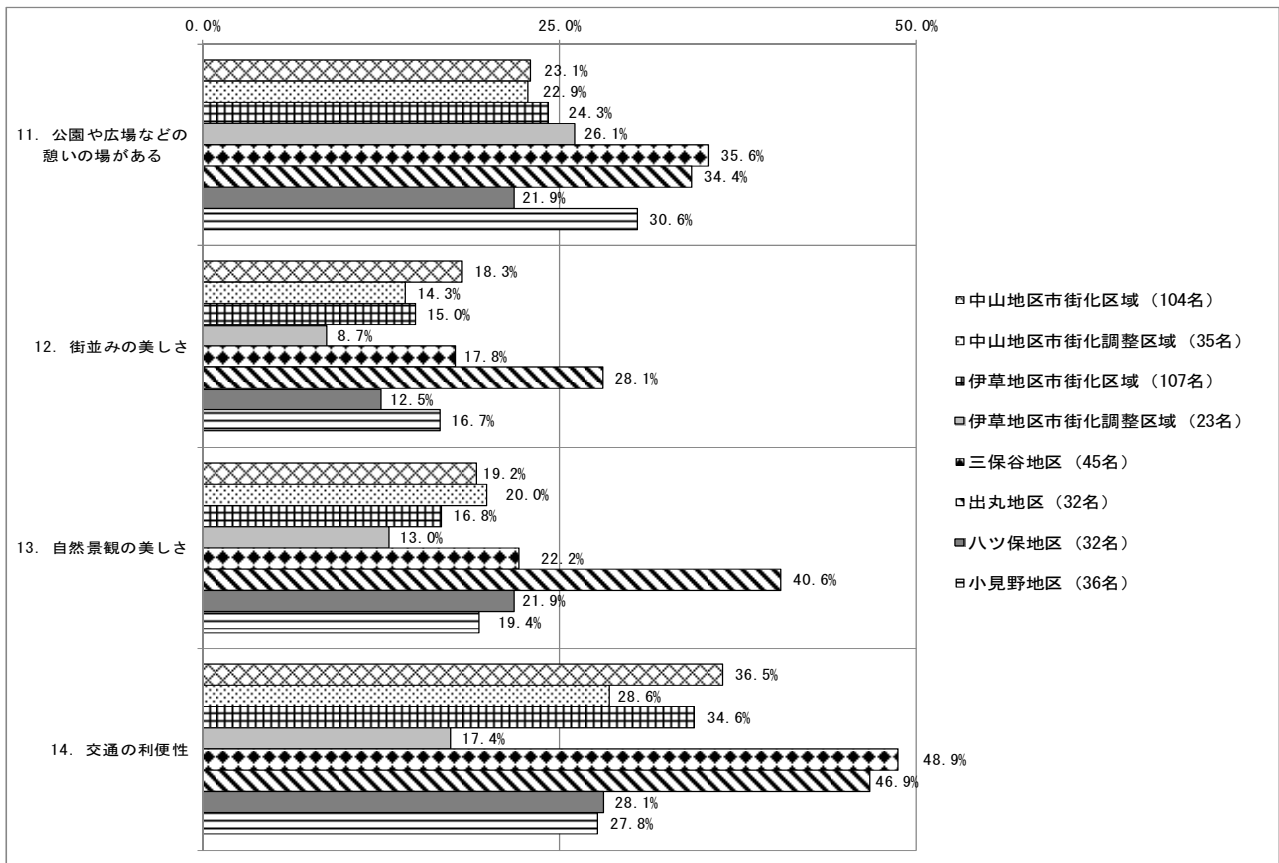


「緑の豊かさ」については、関心を持っている回答者の割合が、出丸地区において 40.6%と他の地区と比較して特に高くなっています。

「水辺のふれあい」と「土とのふれあい」については、出丸地区と八ツ保地区において、関心を持っている回答者の割合が他地区よりも高くなっていますが、30%を超える地区はなく、全体的に関心の度合いは低いといえます。

「自然の生きものとのふれあい（野鳥、昆虫、魚など）」については、全体的に関心をもっている回答者の割合が低い中で、出丸地区は 34.4%と他地区よりも高くなっています。

下図は、快適さ（質問項目 11～14）に関する居住地区別の関心度の違いを示した図です。



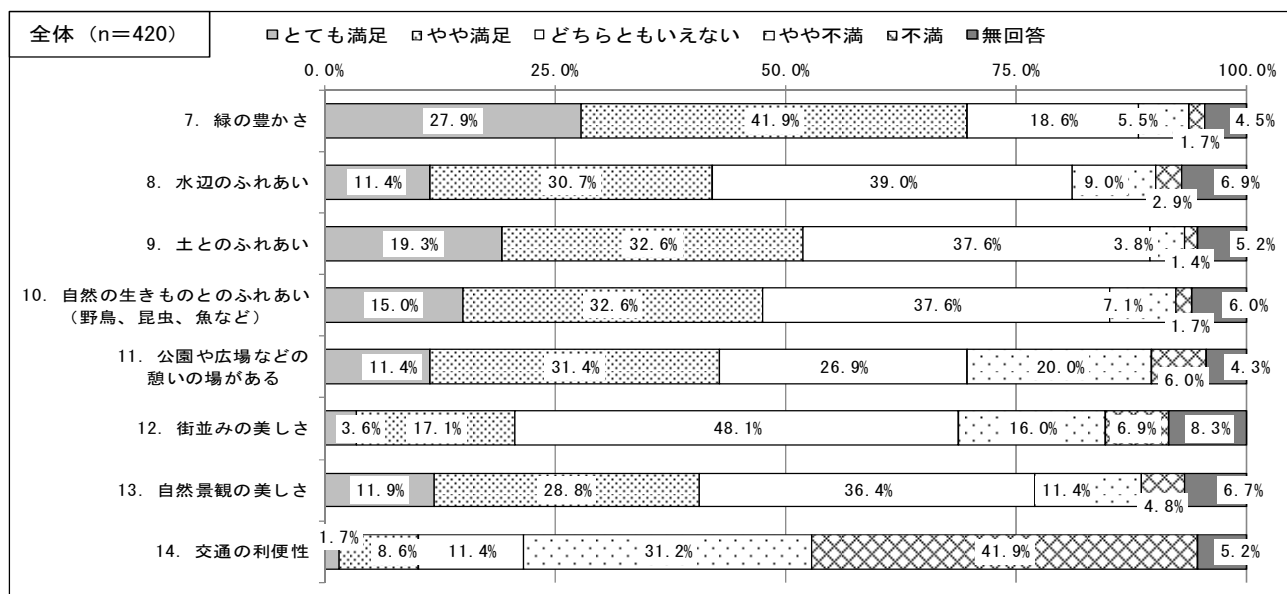
「公園や広場などの憩いの場がある」については、三保谷地区（35.6%）において関心を持っている回答者の割合が最も高く、次いで出丸地区（34.4%）、小見野地区（30.6%）の順となっています。

「街並みの美しさ」については、出丸地区（28.1%）において関心を持っている回答者の割合が最も高く、他の地区の割合は20%より低くなっています。

「自然景観の美しさ」については、全体的に関心を持っている回答者の割合が10%強～20%強である中で、出丸地区は40.6%と特に高くなっています。

「交通の利便性」については、三保谷地区（48.9%）と出丸地区（46.9%）において関心を持っている回答者の割合が50%近くとなっています。他の質問項目と比較すると、関心を持っている回答者の割合が高い傾向がありますが、伊草地区市街化調整区域は17.4%と他の地区と比較すると関心度が低くなっています。

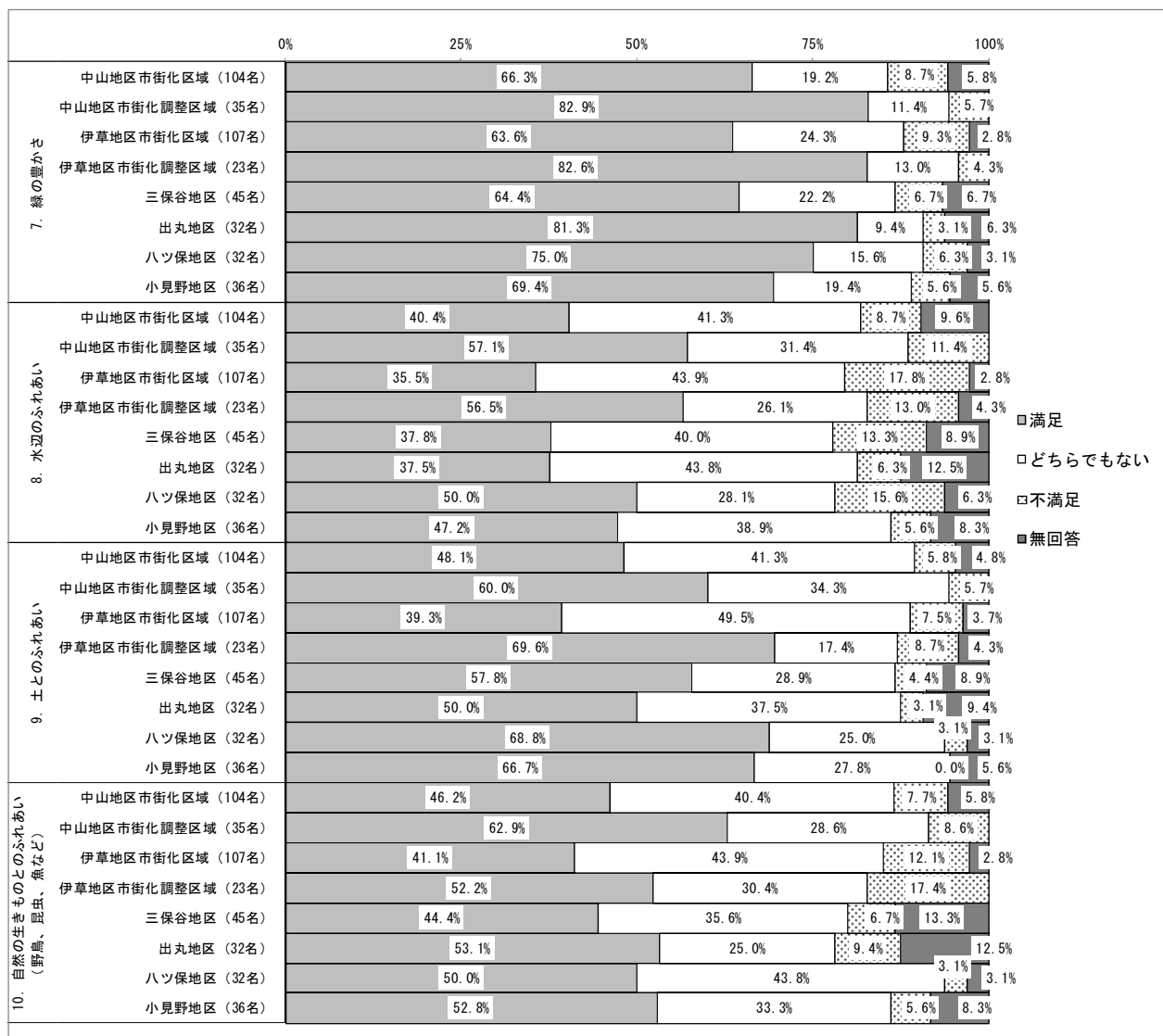
■ 満足度



自然環境や快適環境の満足度に関しては、「とても満足」と「やや満足」の合計が「緑の豊かさ」(69.8%)が最も高く、次いで「土とのふれあい」(51.9%)、「自然の生きものとのふれあい(野鳥、昆虫、魚など)」(47.6%)の順となっています。関心度が高かった「交通の利便性」については、「とても満足」と「やや満足」の合計が10.3%にすぎず、逆に「不満」と「やや不満」の合計が73.1%となっています。このことより、交通の利便性の満足度の低さから関心度が高くなったものと考えられます。

自然環境や快適環境の満足度について、回答者の居住地区別に、各居住地区の回答者数に占める満足度(「とても満足」と「やや満足」の合計)の割合と不満足度(「不満」と「やや不満」の合計)の割合の相違を以下に示します。

下図は、自然の豊かさ・ふれあい（質問項目 7～10）に関する居住地区別の満足度の違いを示した図です。



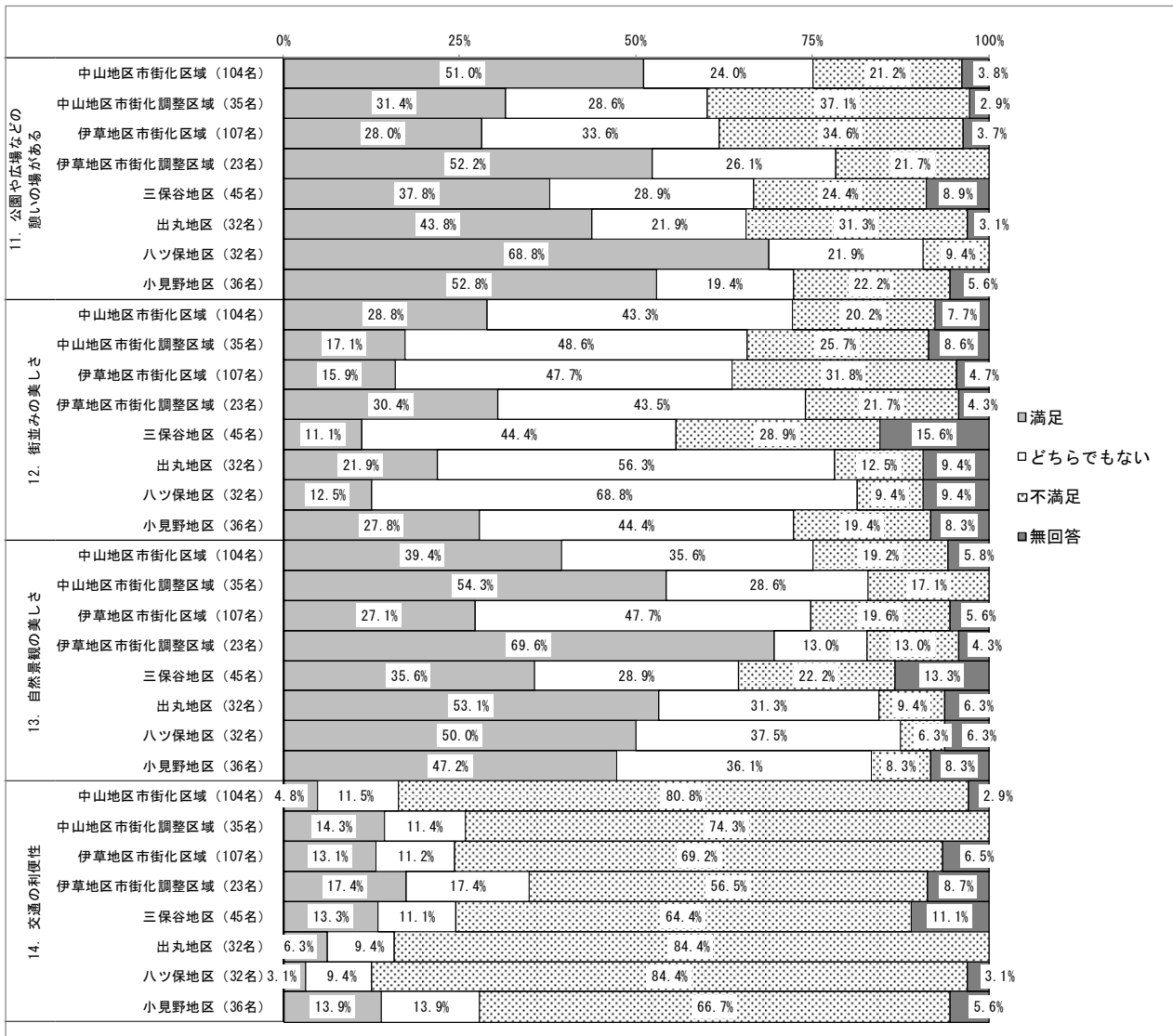
「緑の豊かさ」については、すべての地区で 60%以上の回答者が「満足」と感じており、特に中山地区市街化調整区域 (82.9%)、伊草地区市街化調整区域 (82.6%)、出丸地区 (81.3%) において「満足」の割合が 80%を超えています。

「水辺のふれあい」については、中山地区市街化調整区域 (57.1%) において「満足」の割合が最も高く、次いで伊草地区市街化調整区域 (56.5%)、八ツ保地区 (50.0%) の順となっています。

「土とのふれあい」については、「水辺のふれあい」において「満足」の割合が高かった 3 地域に加え、小見野地区においても「満足」の割合が 60%を超えています。

「自然の生きものとのふれあい」については、中山地区市街化調整区域 (62.9%) において「満足」の割合が最も高く、次いで出丸地区 (53.1%)、小見野地区 (52.8%) の順となっています。

下図は、快適さ（質問項目 11～14）に関する居住地区別の満足度の違いを示した図です。



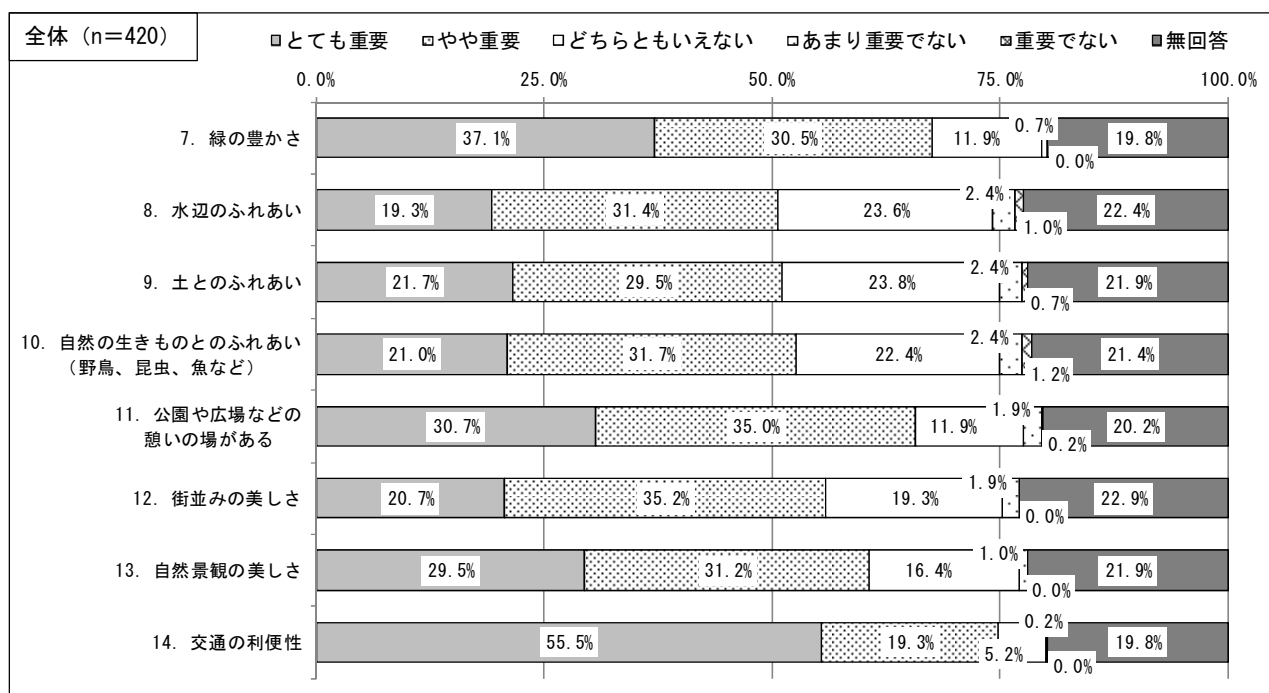
「公園や広場などの憩いの場がある」については、八ツ保地区を除いて「不満足」の割合が 20%を超えており、自然の豊かさ・ふれあい（質問項目 7～10）と比較すると高くなっています。

「街並みの美しさ」については、全体的に「どちらでもない」の割合が高くなっていますが、中山地区市街化調整区域、伊草地区市街化区域、三保谷地区において、「満足」よりも「不満足」の割合が高くなっています。

「自然景観の美しさ」については、伊草地区市街化調整区域において「満足」の割合が 69.6%と最も高く、次いで中山地区市街化調整区域（54.3%）、出丸地区（53.1%）の順となっています。

「交通の利便性」については、すべての地区で半数以上の回答者が「不満足」と感じており、「満足」よりも「不満足」の割合がかなり高くなっています。

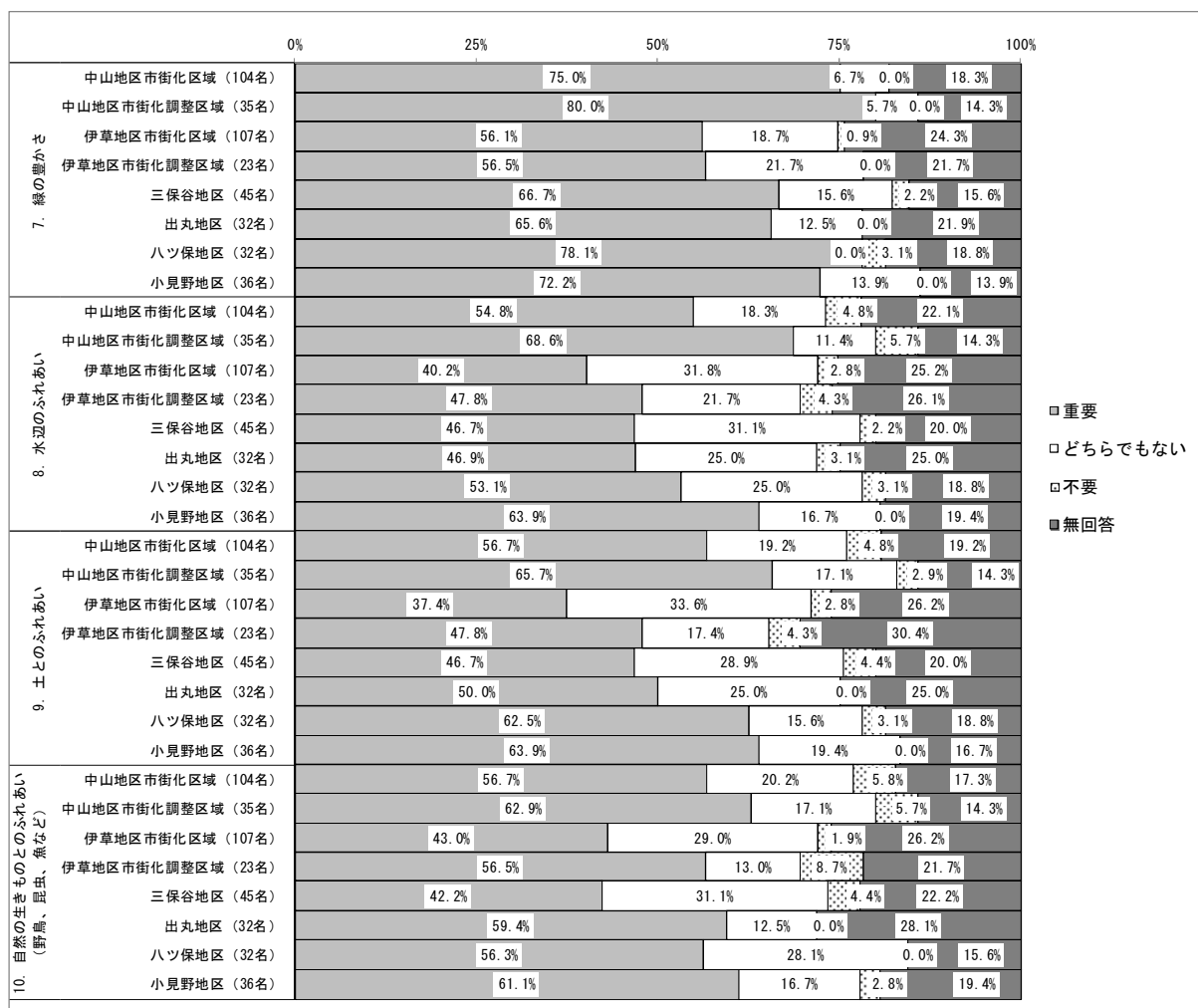
■ 重要度



自然環境や快適環境の重要度に関しては、「とても重要」と「やや重要」の合計が「交通の利便性」(74.8%)、「緑の豊かさ」(67.6%)、「公園や広場などの憩いの場がある」(65.7%)の順で高くなっています。満足度が低かった「交通の利便性」については、「とても重要」との回答が50%を超えており、改善が望まれている環境であることがうかがえます。

自然環境や快適環境の重要度について、回答者の居住地区別に、各居住地区の回答者数に占める重要度（「とても重要」と「やや重要」の合計）の割合と不要度（「重要ではない」と「あまり重要でない」の合計）の割合の相違を以下に示します。

下図は、自然の豊かさ・ふれあい（質問項目 7～10）に関する居住地区別の重要度の違いを示した図です。

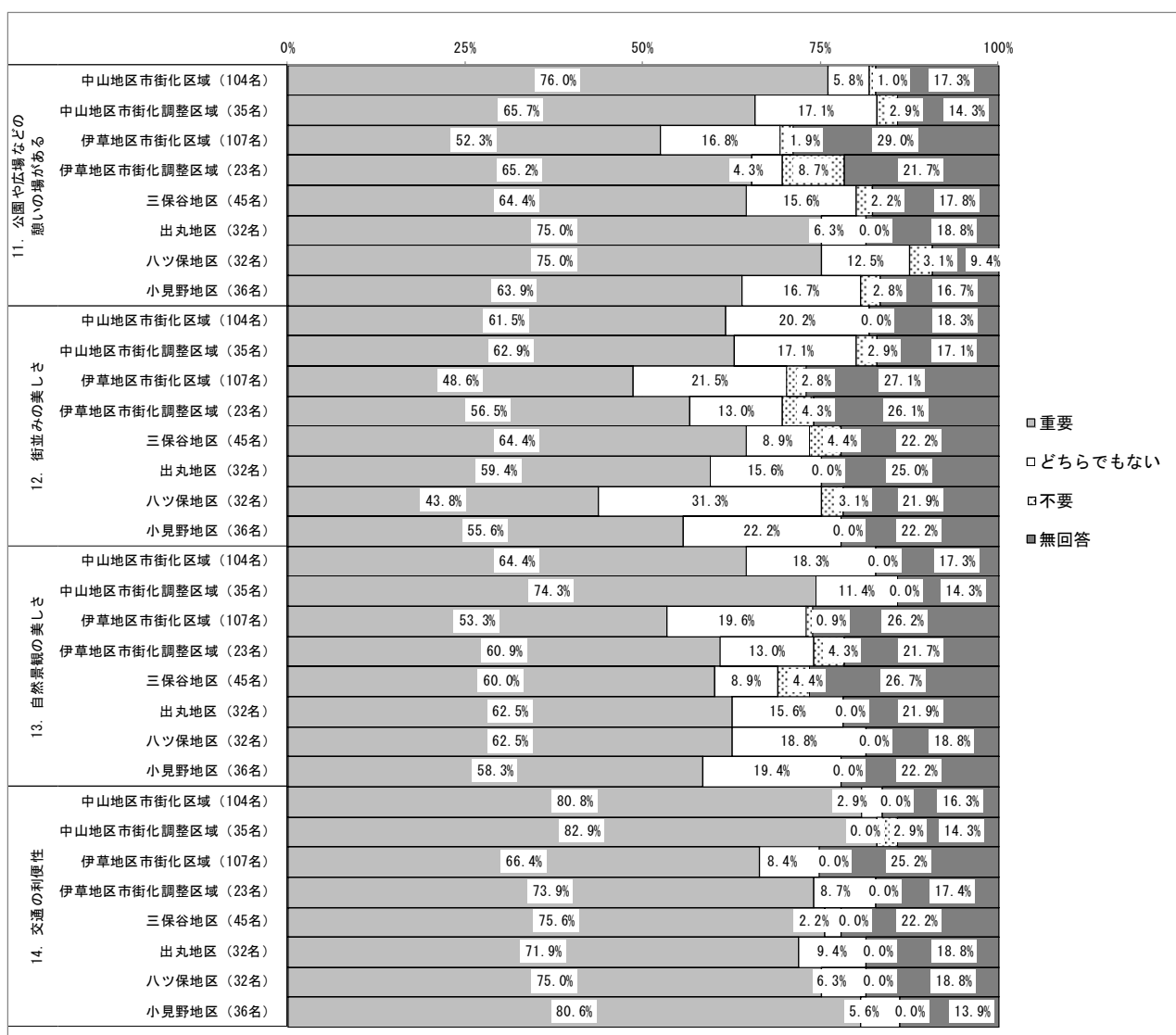


「緑の豊かさ」については、すべての地区で半数以上の回答者が「重要」と考えており、中山地区市街化調整区域（80.0%）や八ツ保地区（78.1%）などで割合が高くなっています。

「水辺のふれあい」と「土とのふれあい」については、中山地区市街化区域、中山地区市街化調整区域、八ツ保地区、小見野地区において「重要」の割合が高く、伊草地区市街化区域が他の地域と比較すると割合が低くなっています。

「自然の生きものとのふれあい」については、「重要」の割合が中山地区市街化調整区域（62.9%）で最も高く、次いで小見野地区（61.1%）、出丸地区（59.4%）の順となっています。

下図は、快適さ（質問項目 11～14）に関する居住地区別の重要度の違いを示した図です。



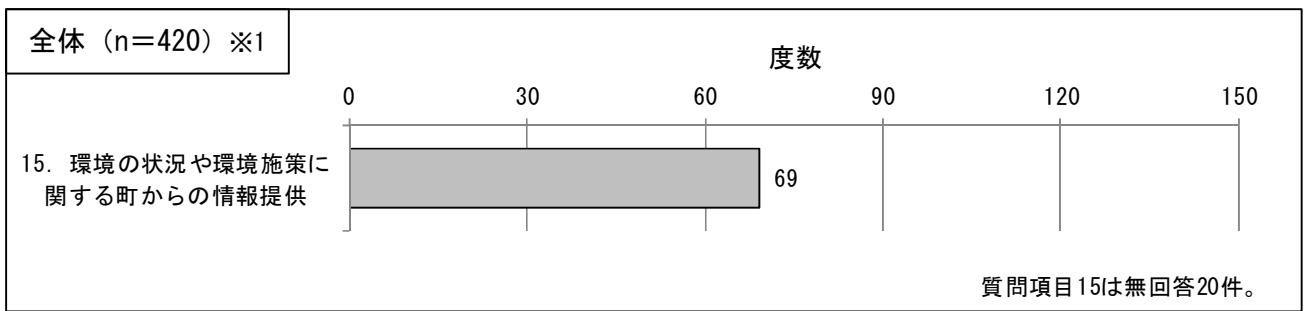
「公園や広場などの憩いの場がある」については、すべての地区で半数以上の回答者が「重要」と答えています。その中でも、中山地区市街化区域（76.0%）、出丸地区・八ツ保地区（75.0%）などで割合が高くなっています。

「街並みの美しさ」については、「重要」の割合は八ツ保地区が64.4%と最も高く、次いで中山地区市街化調整区域（62.9%）、中山地区市街化区域（61.5%）の順となっています。

「自然景観の美しさ」については、すべての地区で「重要」の割合が50%を超えており、中山地区市街化調整区域が74.3%と最も高くなっています。

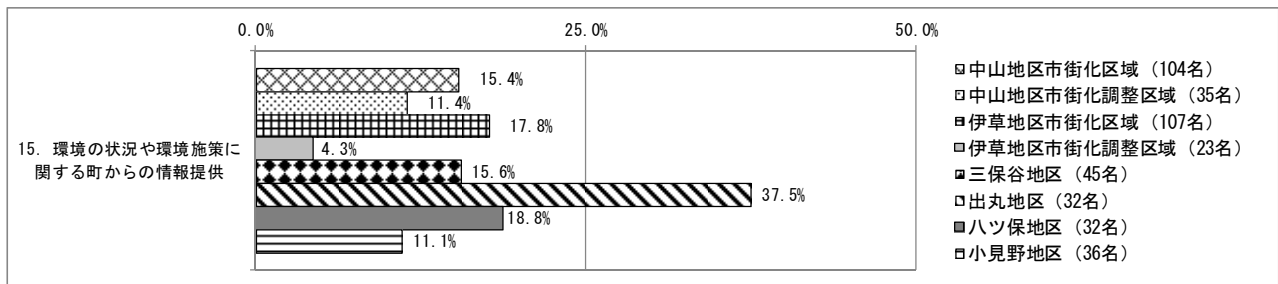
「交通の利便性」については、すべての地区で「重要」の割合が60%を超えています。すべての地区で「交通の利便性」に関する満足度が低かったことから、利便性の向上が望まれていることがうかがえます。

■ 関心度



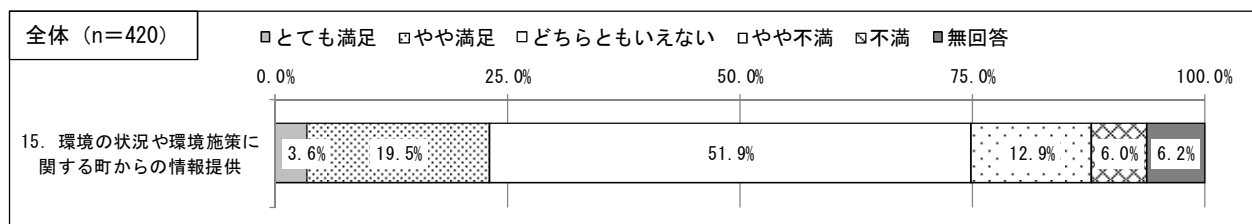
環境情報の提供の関心度については、「環境の状況や環境施策に関する町からの情報提供」が69件となっており、他の項目と比較すると低位にとどまっています。

環境情報の提供の関心度について、回答者の居住地区別の相違を以下に示します（各居住地区の回答者数に占める関心を持っている人の割合）。



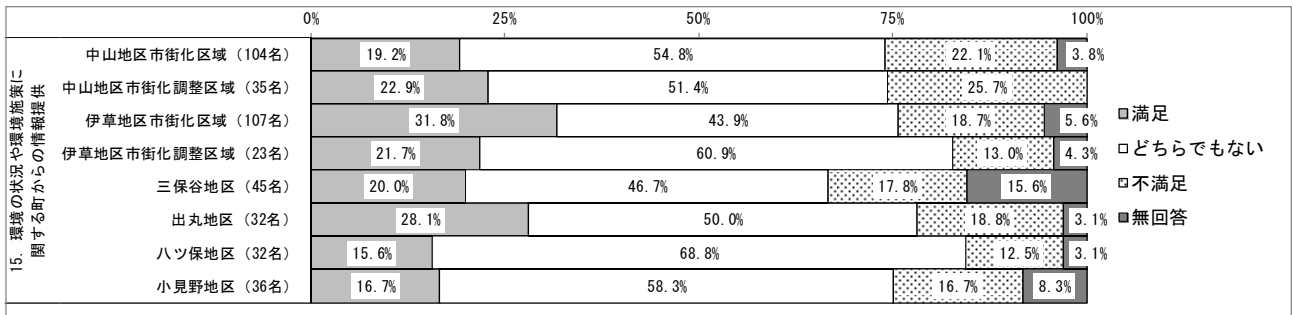
「環境の状況や環境施策に関する町からの情報提供」については、関心を持っている回答者の割合が、出丸地区で37.5%と他の地域と比較して高くなっています。

■ 満足度



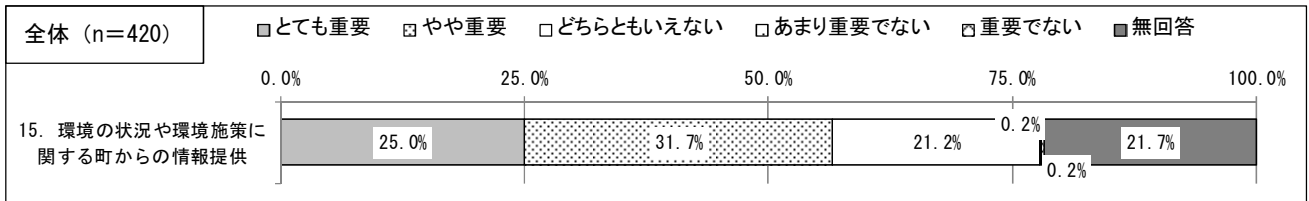
環境情報の提供の満足度に関しては、「とても満足」と「やや満足」の合計が23.1%、「不満」と「やや不満」の合計が18.9%であり、若干、満足度の方が高くなっています。

環境情報の提供の関心度について、回答者の居住地区別に、各居住地区の回答者数に占める満足度（「とても満足」と「やや満足」の合計）の割合と不満足度（「不満」と「やや不満」の合計）の割合の相違を示します。



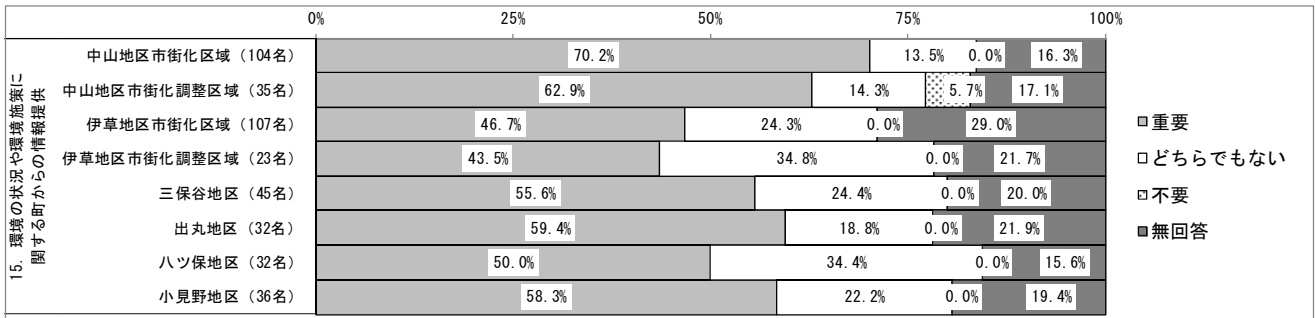
全体的に「どちらでもない」の割合が高くなっていますが、伊草地区市街化区域において「満足」が31.8%と最も高く、次いで出丸地区 (28.1%)、中山地区市街化調整区域 (22.9%) となっています。しかし中山地区市街化調整区域は、「不満足」の割合も25.7%と最も高くなっています。

■ 重要度



環境情報の提供の重要度に関しては、「とても重要」と「やや重要」の合計が56.7%となっています。

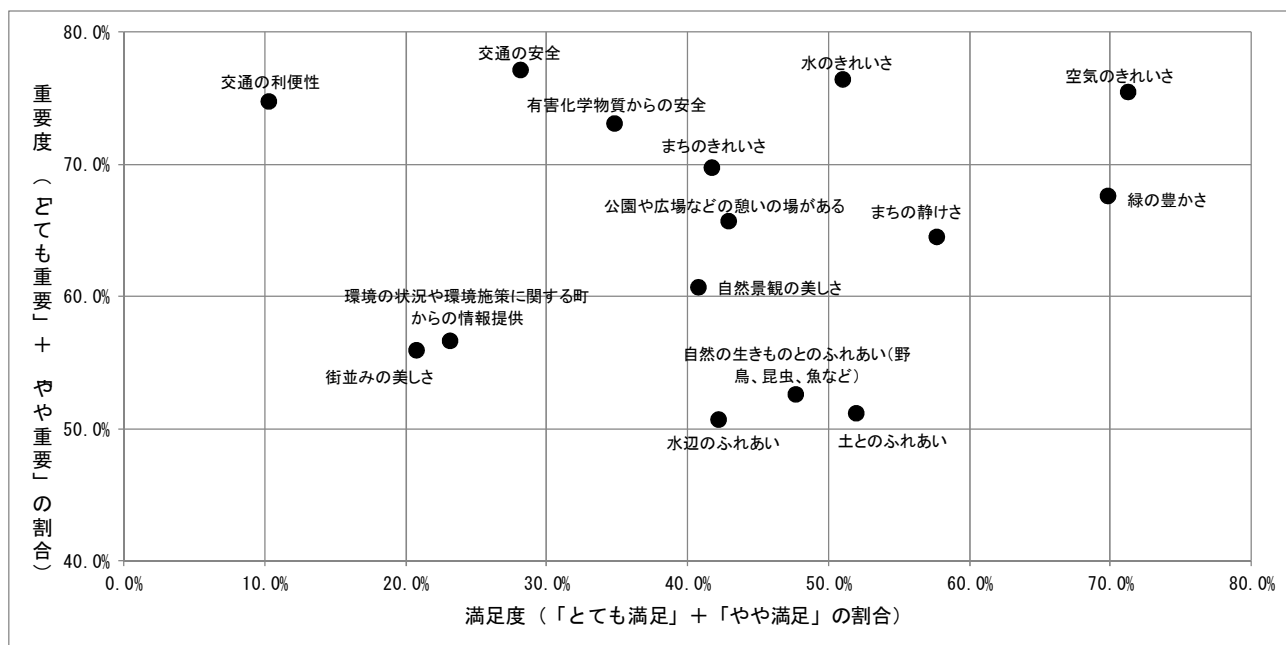
環境情報の提供の重要度について、回答者の居住地区別に、各居住地区の回答者数に占める重要度（「とても重要」と「やや重要」の合計）の割合と不要度（「重要ではない」と「あまり重要でない」の合計）の割合の相違を以下に示します。



「重要」の割合は中山地区市街化区域において70.2%と最も高く、次いで中山地区市街化調整区域 (62.9%)、出丸地区 (59.4%) の順となっています。

■ 満足度と重要度との相関関係

すべての項目について、満足度（「とても満足」と「やや満足」を合わせた割合）と重要度（「とても重要」と「やや重要」を合わせた割合）の関係を表したものを以下に示します。



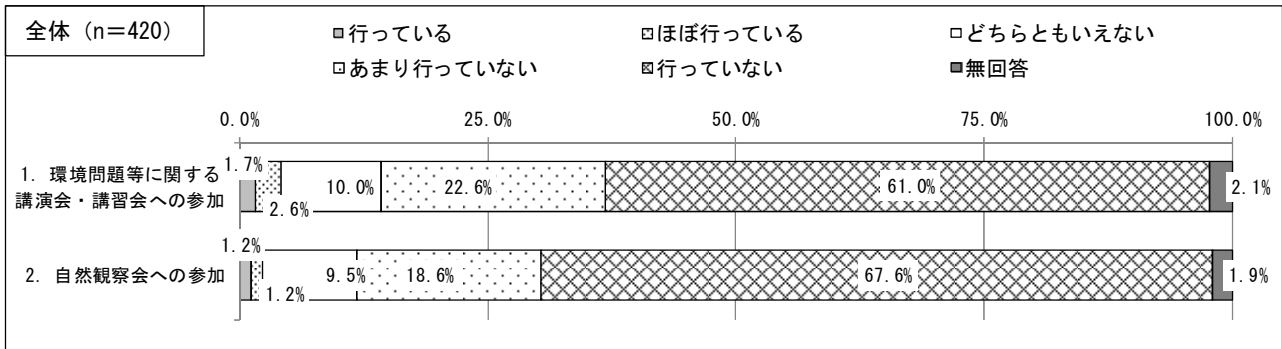
満足度と重要度の関係を見ると、「空気きれいさ」や「緑の豊かさ」については、満足度も重要度も高く、現状を維持するとともに、さらなる増進の必要性がある項目といえます。

また、交通環境（「交通の利便性」と「交通の安全」）については、重要度が高いにもかかわらず満足度が低くなっており、特に「交通の利便性」はその傾向が顕著に表れています。

3. あなたの日頃の環境保全に対する取り組みについて

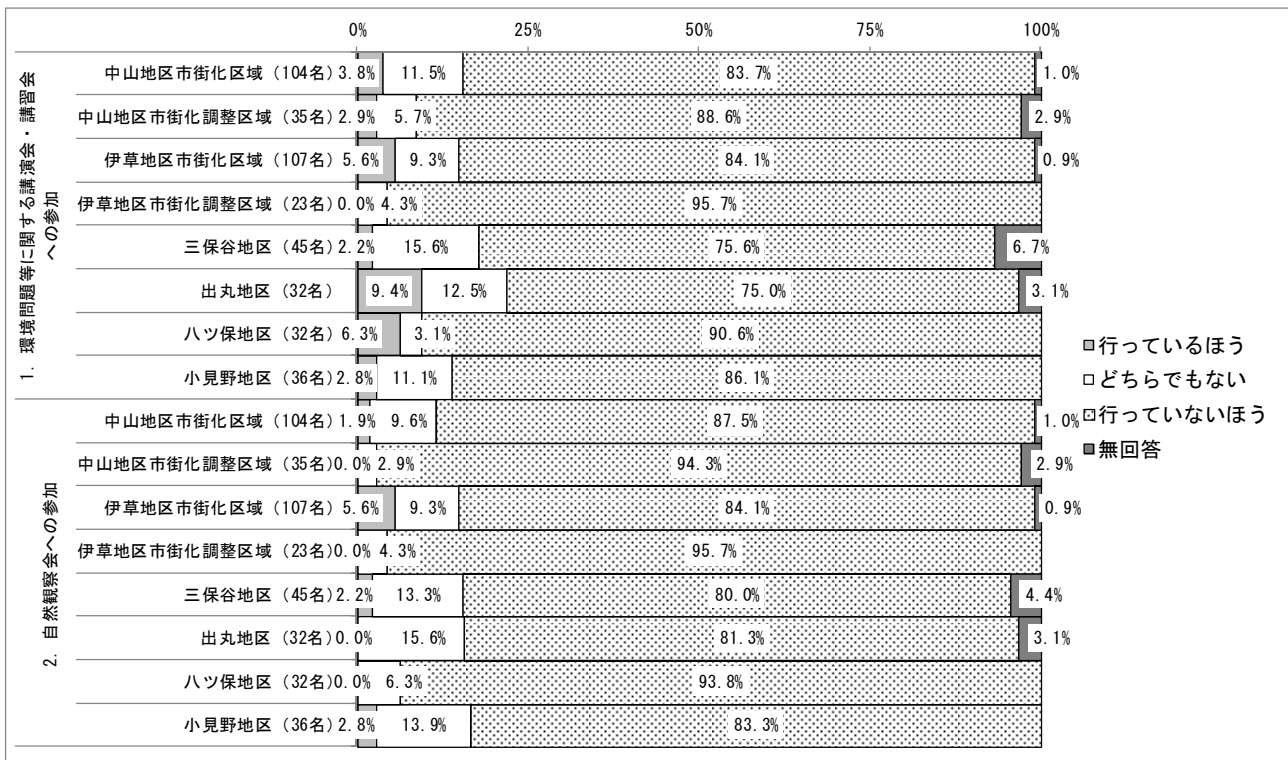
問3-1

(1) 講演会・観察会について



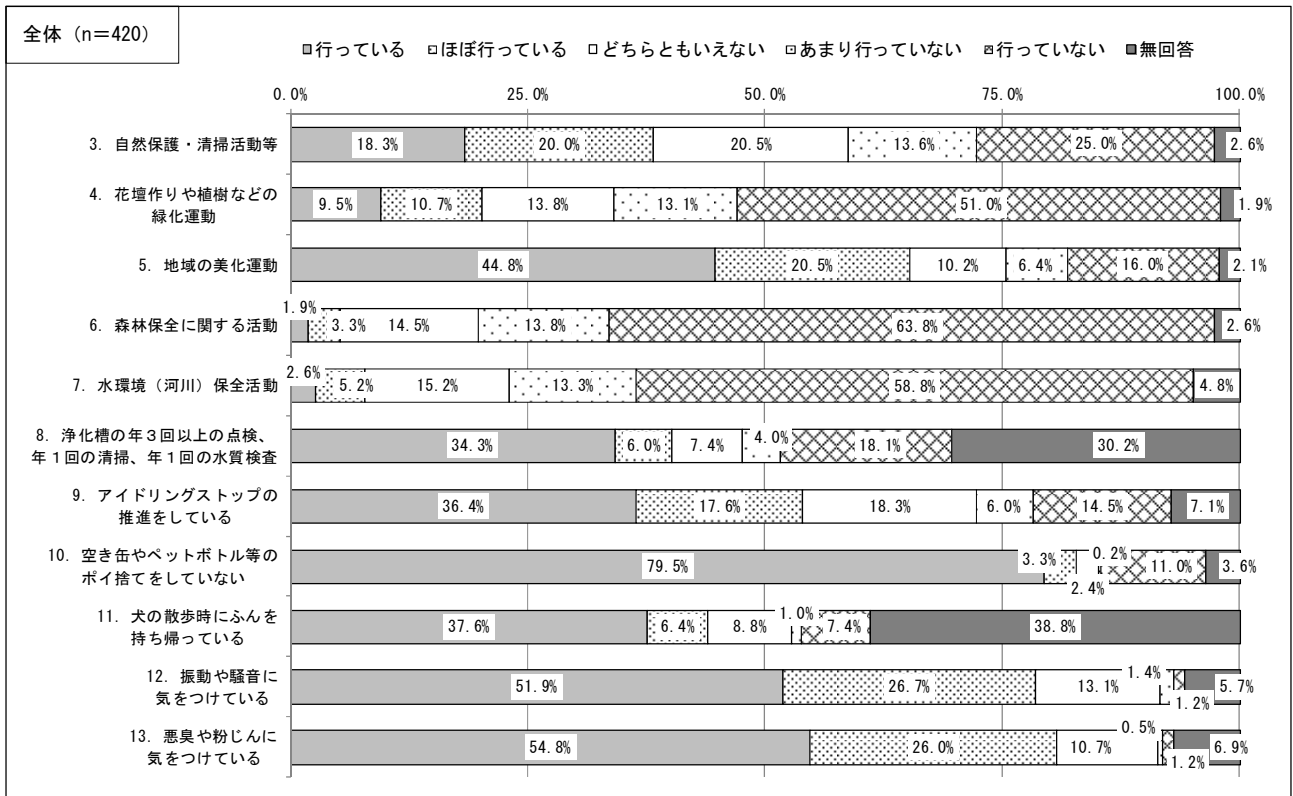
講演会・観察会への取り組みについては、「行っていない」と「あまり行っていない」の合計が、「環境問題等に関する講演会・講習会への参加」は83.6%、「自然観察会への参加」は86.2%となっており、行政等がそのような機会をつくることが重要であると考えられます。

講演会・観察会への取り組みについて、回答者の居住地区別に、各居住地区の回答者数に占める取り組み度合いの割合の相違を以下に示します。なお、「行っている」と「ほぼ行っている」の合計の割合を「行っているほう」、「行っていない」と「あまり行っていない」の合計の割合を「行っていないほう」としています。



「環境問題等に関する講演会・講習会への参加」、「自然観察会への参加」ともに、すべての地区で「行っていないほう」の割合が75%以上であり、「行っているほう」の割合が低くなっています。

(2) 自然保護・清掃活動等について



自然保護・清掃活動等への取り組みについては、「行っている」と「ほぼ行っている」の合計が、「空き缶やペットボトル等のポイ捨てをしていない」で82.8%と最も高く、次いで「悪臭や粉じんに関心を持っている」（80.8%）、「振動や騒音に関心を持っている」（78.6%）の順となっています。日常生活の中で気をつけることで取り組める内容の取り組み割合が高くなっていることがわかります。

一方、「行っていない」と「あまり行っていない」の合計は、「森林保全に関する活動」（77.6%）や「水環境（河川）保全活動」（72.1%）、「花壇作りや植樹などの緑化運動」（64.1%）が高くなっています。問2では、「空気のきれいさ」や「水のきれいさ」、「緑の豊かさ」の重要度が高くなっています。

自然保護・清掃活動等への取り組みについて、回答者の居住地区別に、各居住地区の回答者数に占める取り組み割合の割合の相違を次ページに示します。

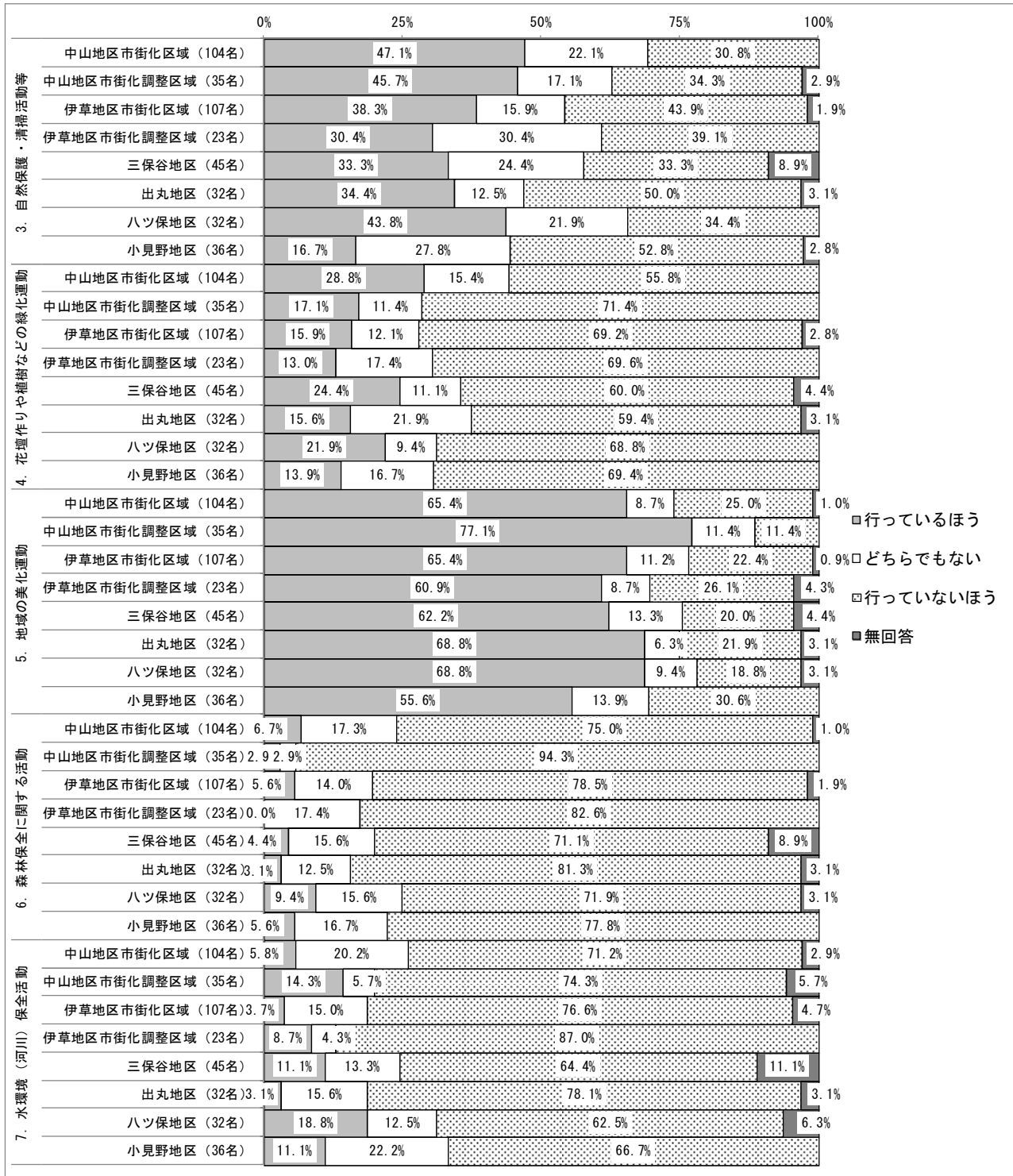
次ページの図は、活動や運動（質問項目3～7）に関する居住地区別の取り組み割合の違いを示した図です。

「自然保護・清掃活動等」については、各地区において「行っているほう」の割合が30～50%であり、その中で中山地区市街化区域（47.1%）と中山地区市街化調整区域（45.7%）は50%近い割合となっています。小見野地区は、16.7%と他地区に比べ割合が低くなっています。

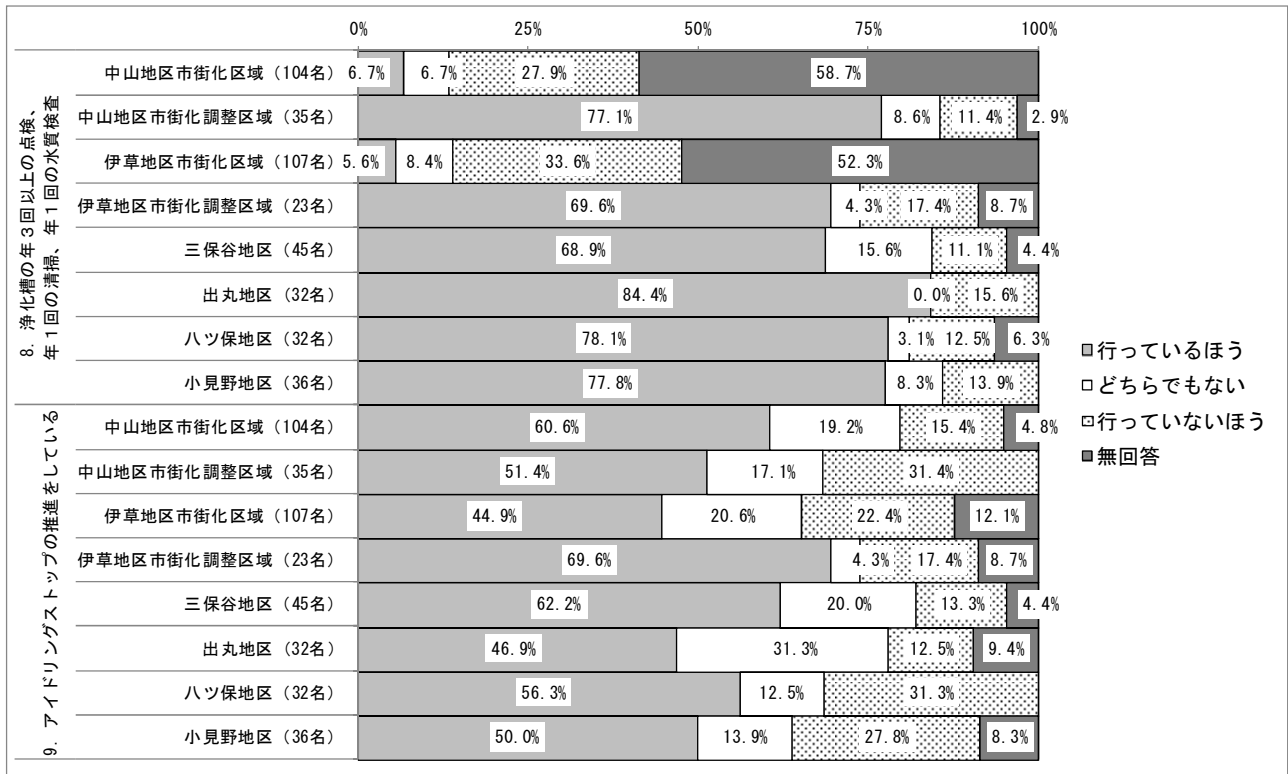
「花壇作りや植樹などの緑化運動」、「森林保全に関する活動」、「水環境（河川）保全活動」については、全体的に「行っているほう」の割合が低くなっていますが、これらの活動の中では「花壇作りや植樹などの緑化運動」に取り組んで割合が若干高くなっています。

「地域の美化運動」については、他の活動や運動と比較して「行っているほう」の割合が高く、すべての地区で50%を超えています。特に中山地区市街化調整区域では、77.1%と80%近い回答者が取り組

んでいます。



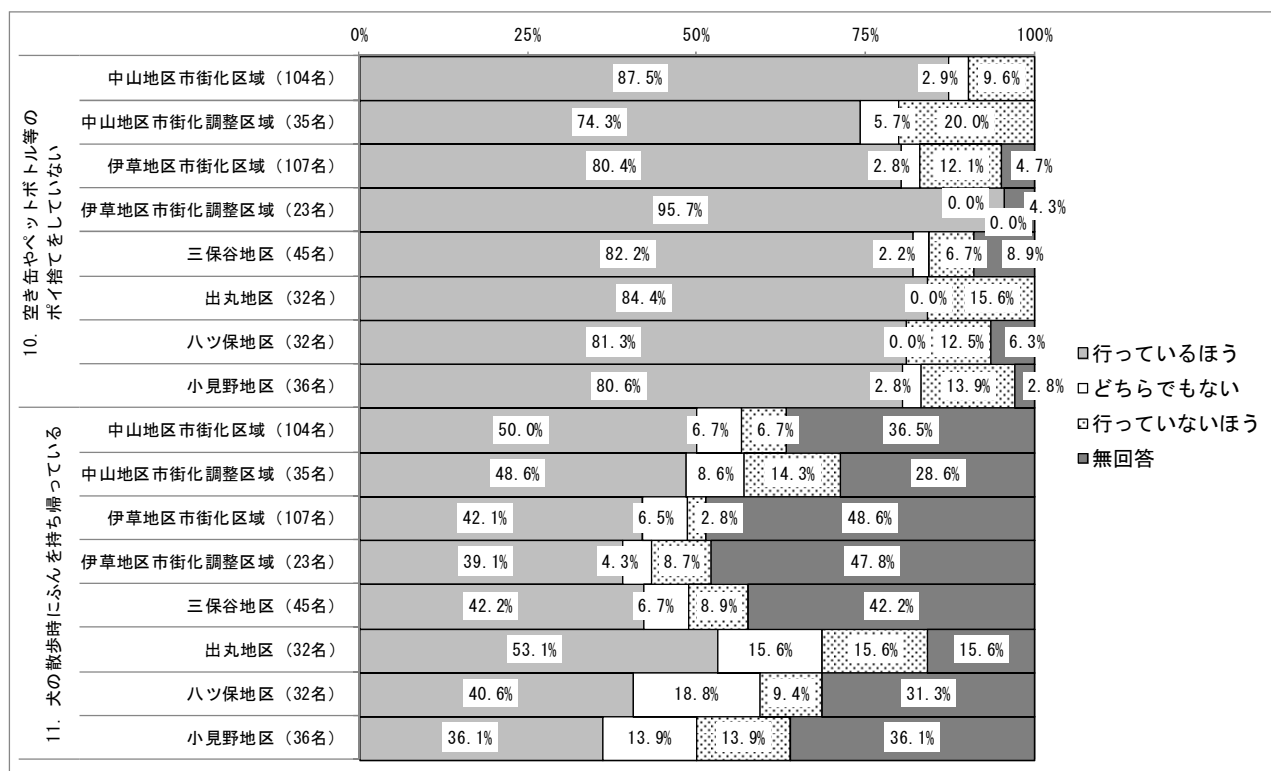
下図は、清掃やアイドリングストップ（質問項目 8～9）に関する居住地区別の取り組み度合いの違いを示した図です。



「浄化槽の年3回以上の点検、年1回の清掃、年1回の水質検査（下水道使用者は除く）」については、中山地区市街化区域と伊草地区市街化区域において「行っているほう」の割合が10%未満と低くなっていますが、その他の地区では60%以上の回答者が取り組んでいます。

「アイドリングストップの推進をしている」については、「行っているほう」の割合は伊草地区市街化調整区域が69.6%と最も高く、次いで三保谷地区（62.2%）、中山地区市街化区域（60.6%）の順となっています。

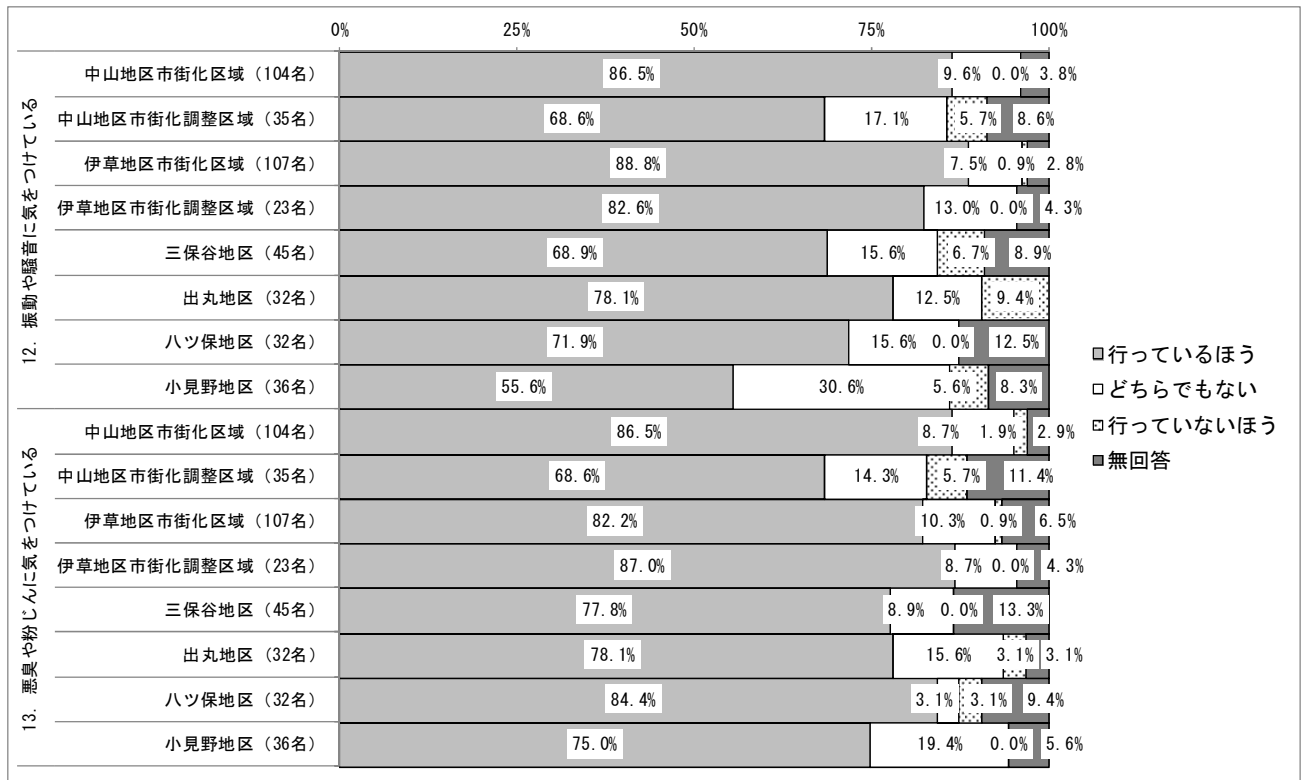
下図は、ごみ（質問項目 10～11）に関する居住地区別の取り組み度合いの違いを示した図です。



「空き缶やペットボトル等のポイ捨てをしていない」については、すべての地区で「行っているほう」の割合が70%を超えています。特に伊草地区市街化調整区域では95.7%とほとんどの回答者が行っています。

「犬の散歩時にふんを持ち帰っている」については、全体的に「行っているほう」の割合が約35%～55%となっており、各地区で3分の1から半数の回答者が行っています。

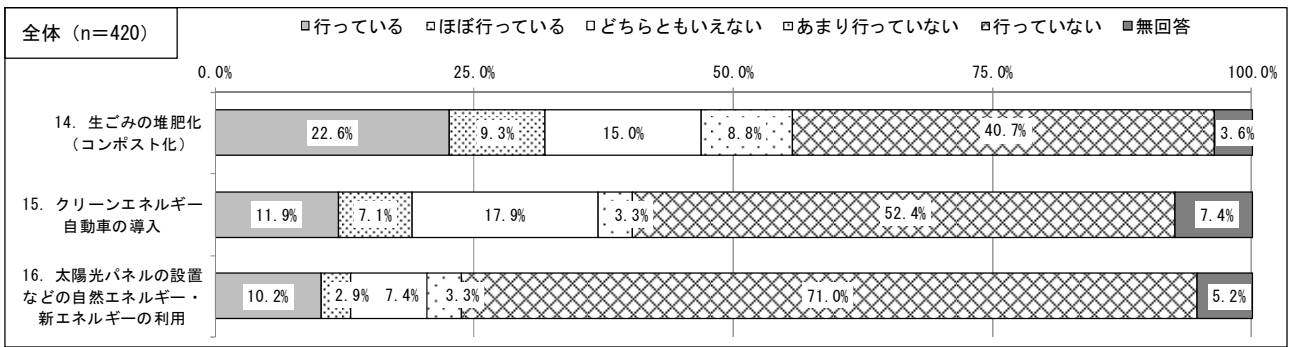
下図は、騒音・悪臭等（質問項目 12～13）に関する居住地区別の取り組み度合いの違いを示した図です。



「振動や騒音に気をつけている」については、すべての地区で「行っているほう」の割合が50%を超えています。伊草地区市街化区域（88.8%）、中山地区市街化区域（86.5%）、伊草地区市街化調整区域（82.6%）において80%を超えて特に高くなっています。

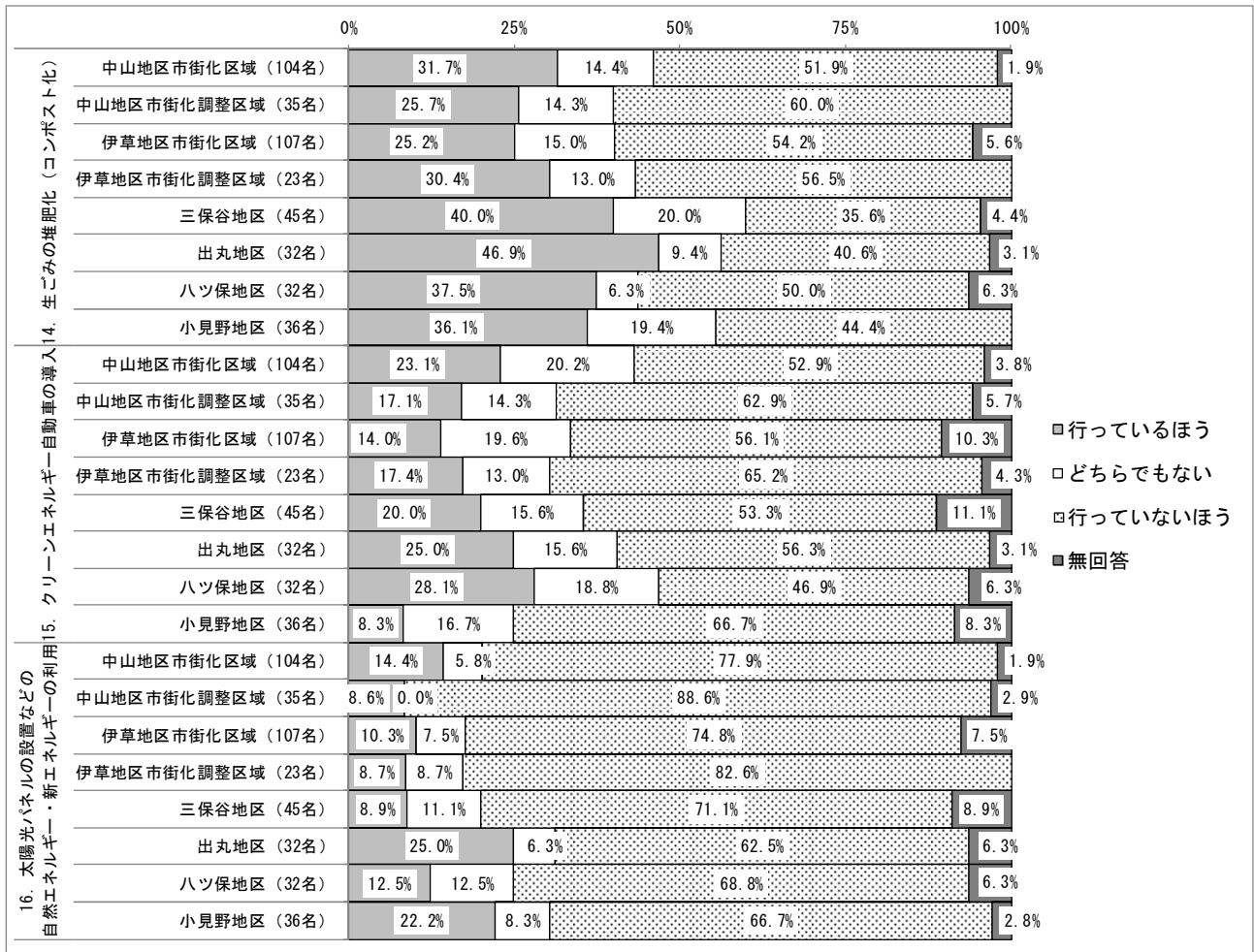
「悪臭や粉じんに気をつけている」についても、「行っているほう」の割合がすべての地区で高くなっています。

(3) リサイクル・省エネルギーについて



リサイクル・省エネルギーへの取り組みについては、「行っている」と「ほぼ行っている」の合計よりも、すべての項目で「行っていない」と「あまり行っていない」の合計の方が高くなっています。

リサイクル・省エネルギーの取り組みについて、回答者の居住地区別に、各居住地区の回答者数に占める取り組み度合いの割合の相違を以下に示します。



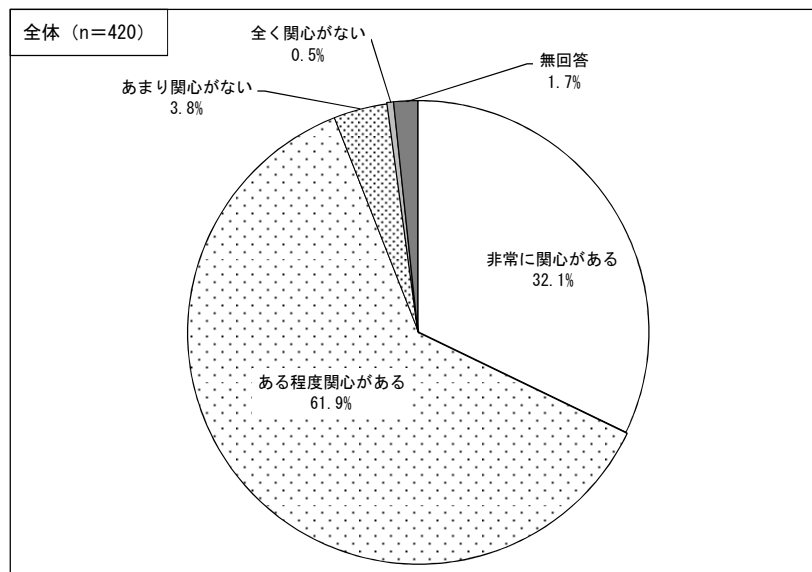
リサイクル・省エネルギーの取り組みについては、すべての質問項目において「行っているほう」の割合が、他の質問項目と比較すると各地区で低い傾向が見られます。これらは、コストや手間がかかる取り組みであることから、「行っているほう」の割合が低くなっているものと考えられます。

「生ごみの堆肥化(コンポスト化)」については、他の2つの質問項目と比較すると「行っているほう」の割合が高く、出丸地区では46.9%と約半数の回答者が行っています。

「クリーンエネルギー自動車の導入」については、八ツ保地区(28.1%)、出丸地区(25.0%)、中山地区市街化区域(23.1%)において、約4分の1の回答者が取り組んでいます。

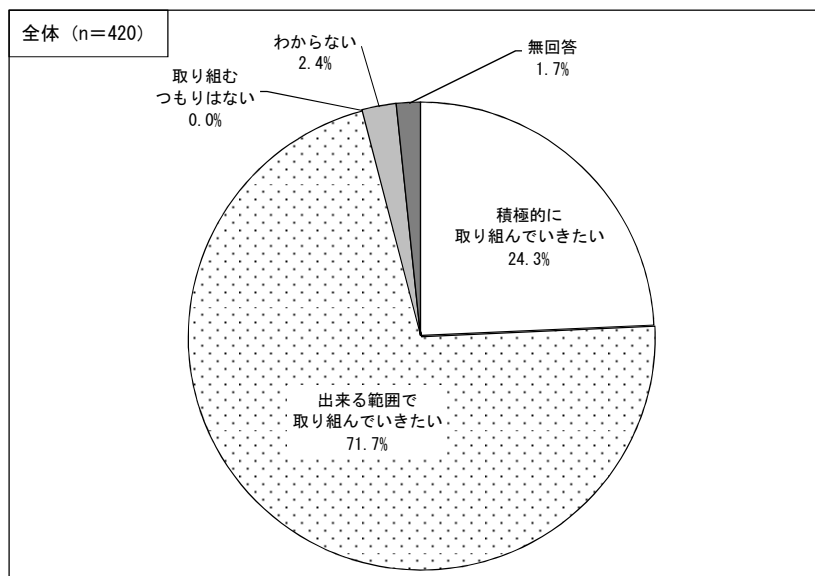
「太陽光パネルの設置などの自然エネルギー・新エネルギーの利用」については、出丸地区(25.0%)と小野見地区(22.2%)において、他の地区と比較して「行っているほう」の割合が高くなっています。

問3-2



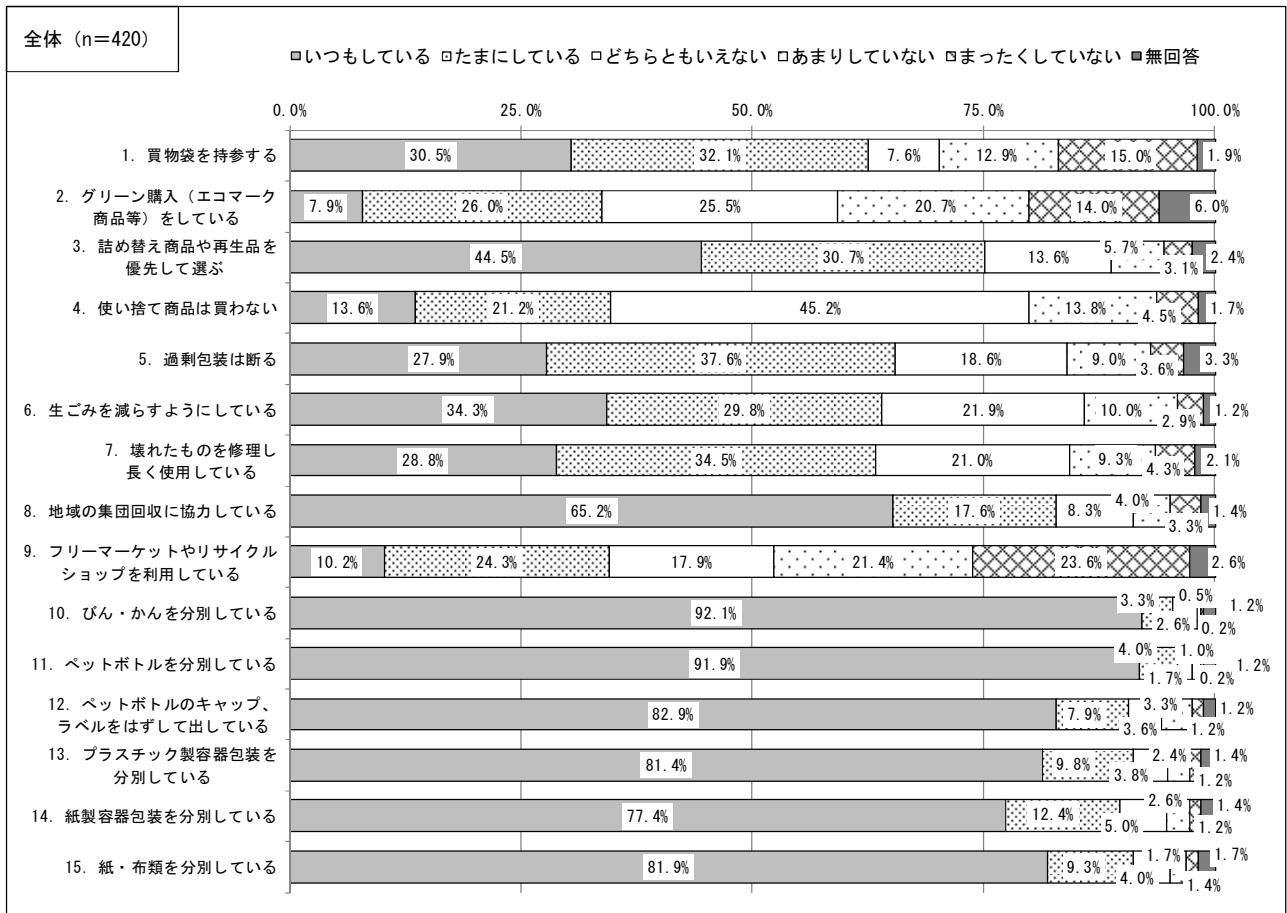
ごみの問題への関心については、「非常に興味がある」と「ある程度は関心がある」の合計が 94.0% となっており、ほとんどの回答者が関心をもっていることがわかります。

問3-3



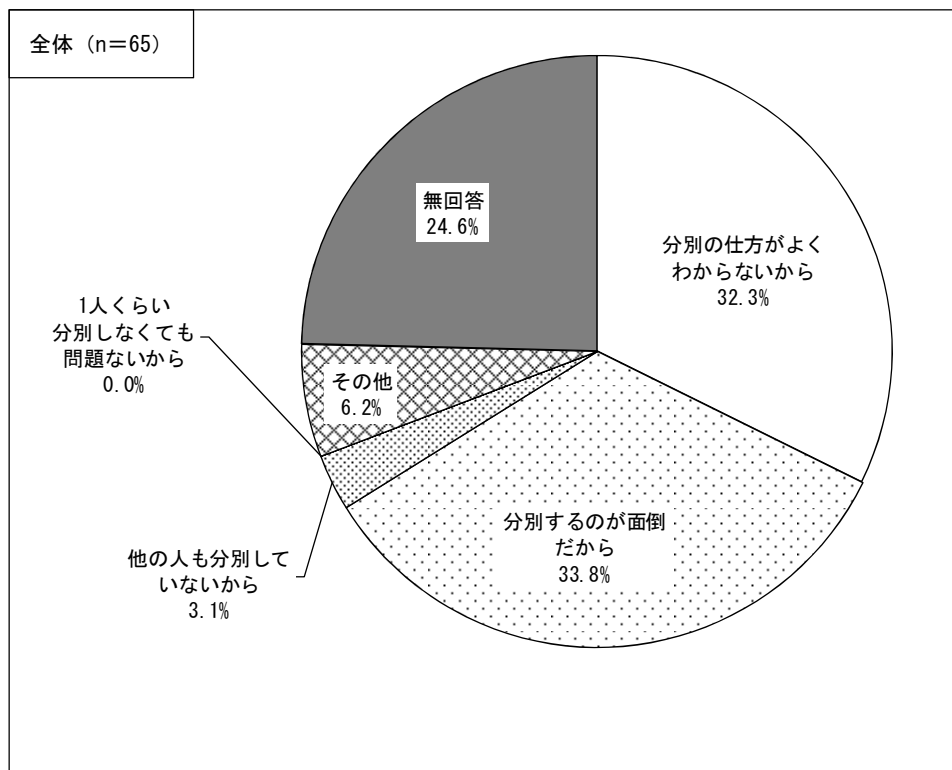
ごみの減量化やリサイクルの取り組みについては、「出来る範囲で取り組んでいきたい」が 71.1%、「積極的に取り組んでいきたい」が 24.3%となっています。また、「取り組むつもりはない」との回答はなく、ごみの減量化やリサイクルの取り組みの今後の推進が期待されます。

問3-4



ごみの減量やリユース・リサイクル、分別については、「いつもしている」と「たまにしている」の合計が、「ペットボトルを分別している」で 95.9%と最も高く、次いで「びん・かんを分別している」(95.4%)、「プラスチック製容器包装を分別している」と「紙・布類を分別している」(91.2%)の順となっています。ほとんどの項目で「いつもしている」と「たまにしている」の合計が60%を超えています。特に分別については、すべての項目で「いつも行っている」が70%を超えており、日常的に分別を行っていることがわかります。

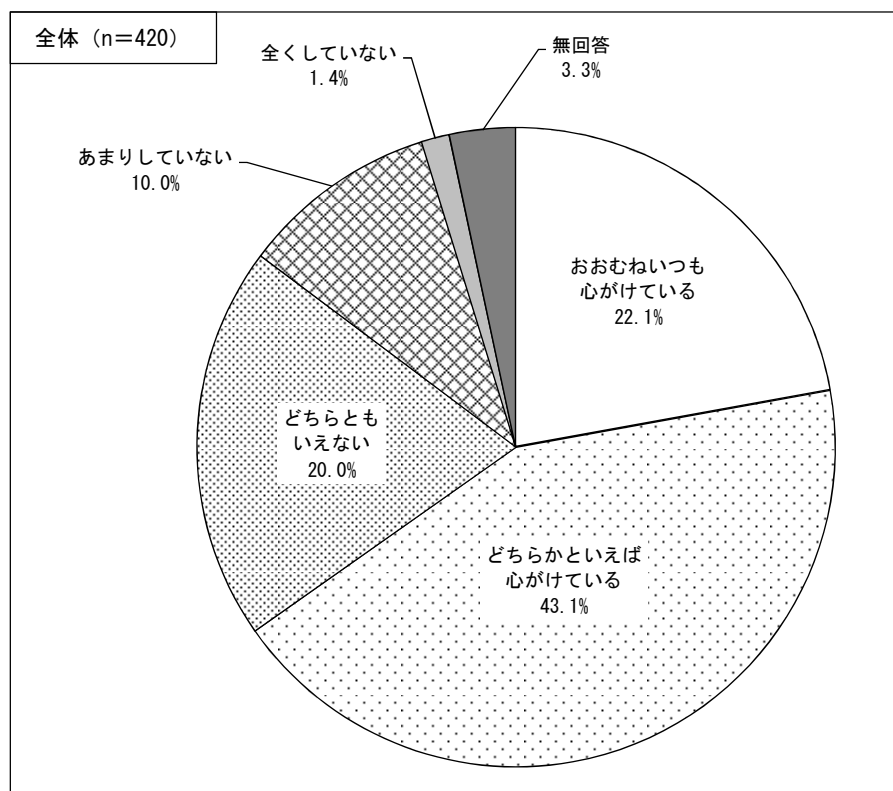
問3-5



ごみの分別を行わない理由については、「分別するのが面倒だから」が33.8%と最も高く、次いで「分別の仕方がよくわからないから」(32.3%)となっています。この2つの理由が高いのは中学生に対するアンケートの結果と同様の傾向です。

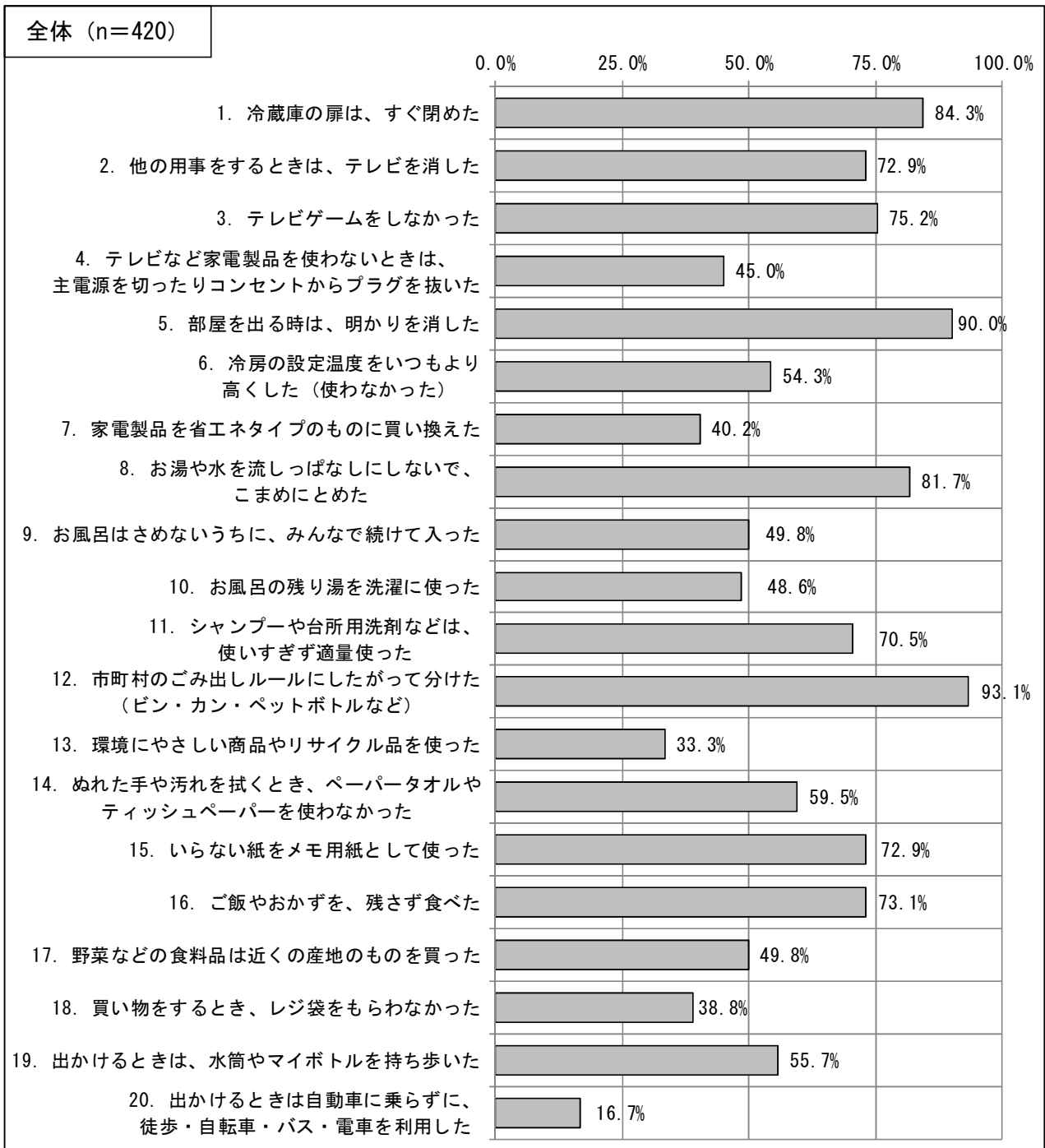
4. 地球温暖化防止に関する取り組みについて

問4-1



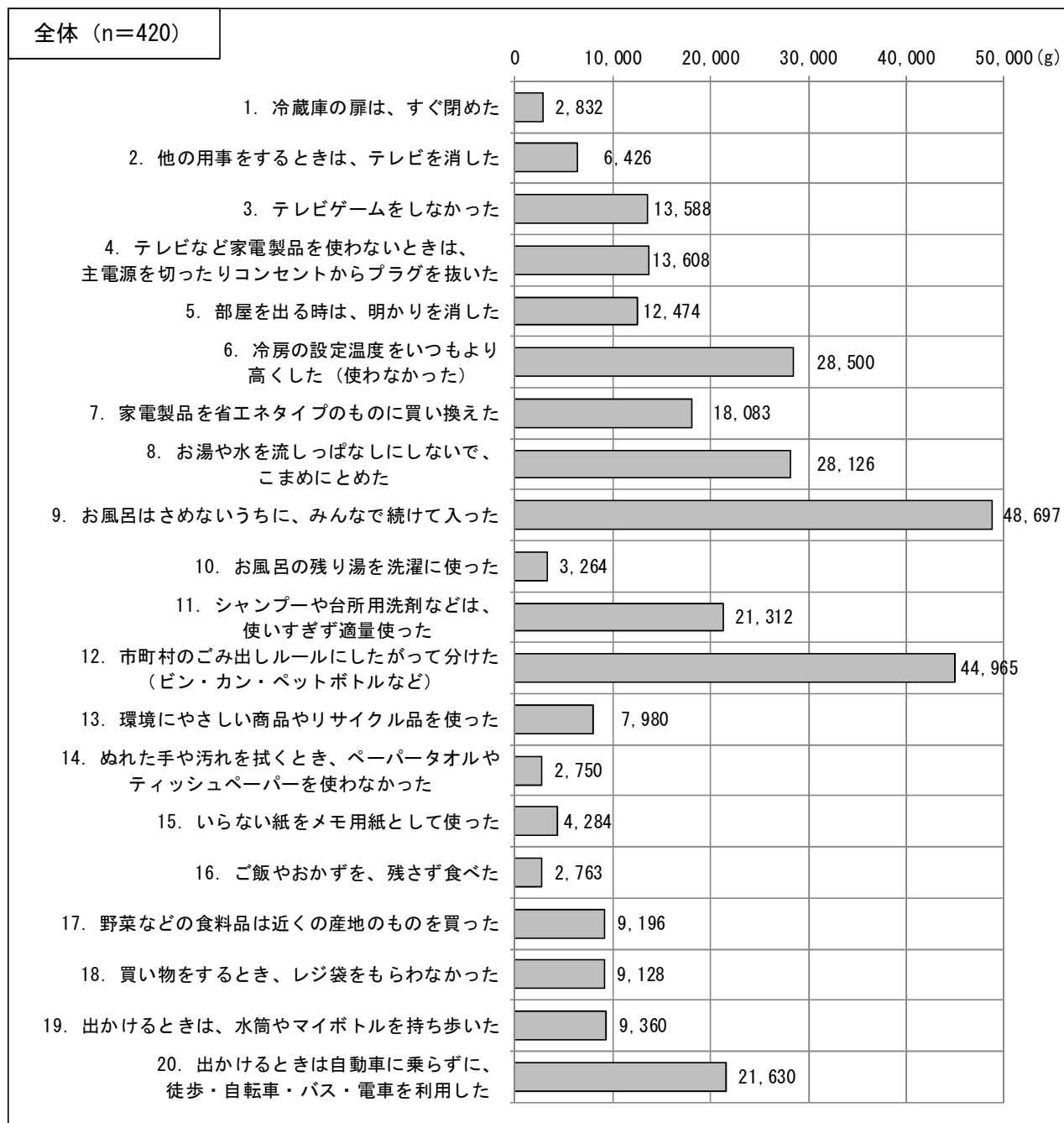
生活の中での地球温暖化防止に配慮した行動の心がけについては、「どちらかといえば心がけている」が43.1%と最も高く、次いで「おむねいつも心がけている」(22.1%)、「どちらともいえない」(20.0%)の順となっています。「どちらかといえば心がけている」と「おむねいつも心がけている」を合計すると、回答を得た町民の6割以上が、生活の中で地球温暖化防止に配慮した行動を心がけていることがわかります。

問4-2



地球温暖化防止に配慮した行動について、それぞれの行動を行った人数の割合をみると、「市町村のごみ出しルールにしたがって分けた (ビン・カン・ペットボトルなど)」(93.1%) が最も高くなっており、次いで「部屋を出る時は、明かりを消した」(90.0%)、「冷蔵庫の扉は、すぐ閉めた」(84.3%)、「お湯や水を流しっぱなしにしないで、こまめにとめた」(81.7%) の順となっています。順位は異なるものの、中学生と同様の行動が上位になっています。

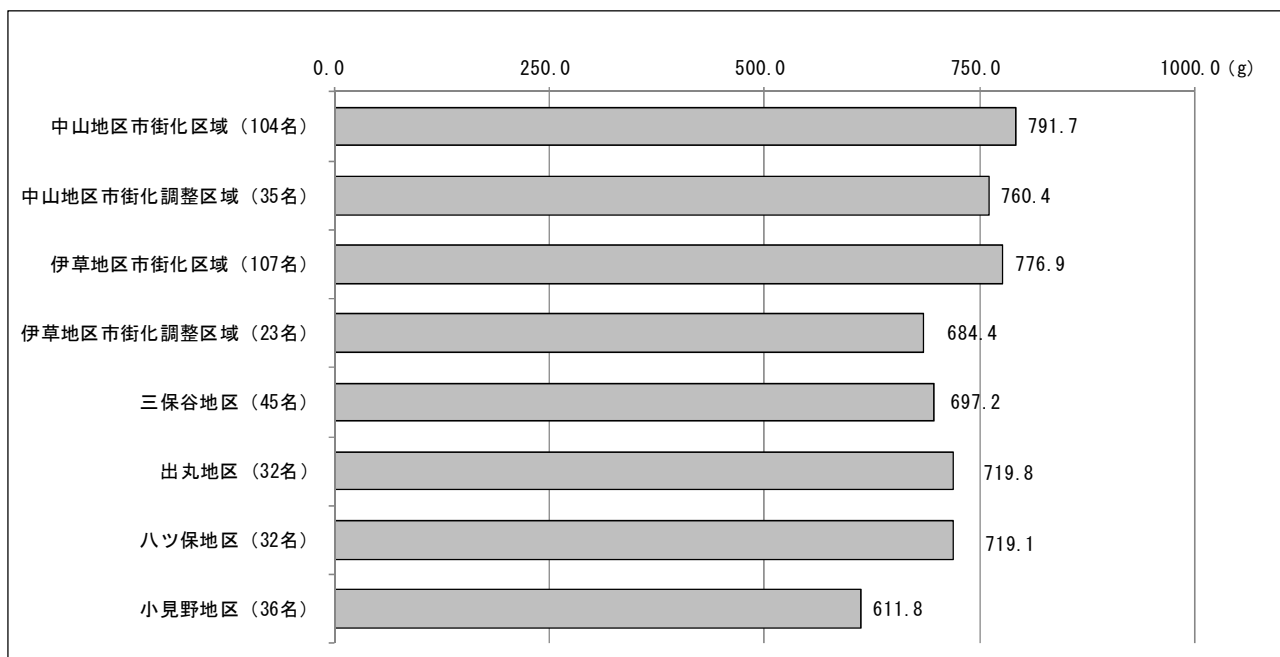
各行動がどの程度のCO₂排出の抑制につながっているのかを示した図を以下に示します。下図では、各行動によるCO₂排出の抑制量と行動を取った人数を掛け合わせ、その合計を求めた結果を示しています。



最もCO₂排出量が抑制された行動は、「お風呂はさめないうちに、みんなで続けて入った」（48,697g）となっています。次いで「市町村のごみ出しルールにしたがって分けた（ビン・カン・ペットボトルなど）」（44,965g）が多くなっています。

中学生は自ら自動車に乗ることができないため単純に比較することはできませんが、中学生の回答では、184名の回答者数で「出かけるときは自動車に乗らずに、徒歩・自転車・バス・電車を利用した」が32,445gであったのに対して、町民は420名の回答者数で21,630gと少なくなっています。問2において町民の「交通の利便性」に対する不満度が高いことから、自動車に変わる交通機関の利便性の低さが、自動車以外の移動手段を利用することを阻害する要因の一つになっていることが考えられます。

居住地区別にみた CO₂ 排出抑制量の平均（一人あたりの CO₂ 排出抑制量）を下図に示します。



居住地区別の CO₂ 排出抑制量の平均は、中山地区市街化区域が 791.7g と最も多く、次いで伊草地区市街化区域（776.9g）、中山地区市街化調整区域（760.4g）の順となっています。

また、地球温暖化防止に配慮した行動について、居住地区別にそれぞれの行動を行った人数の割合を以下に示します。なお、図が大きくなるため、質問項目を 5 つごとに分けて図を掲載しています。

次ページの図は、質問項目 1～5 について、居住地区別の地球温暖化防止行動を行った人数の割合を示しています。

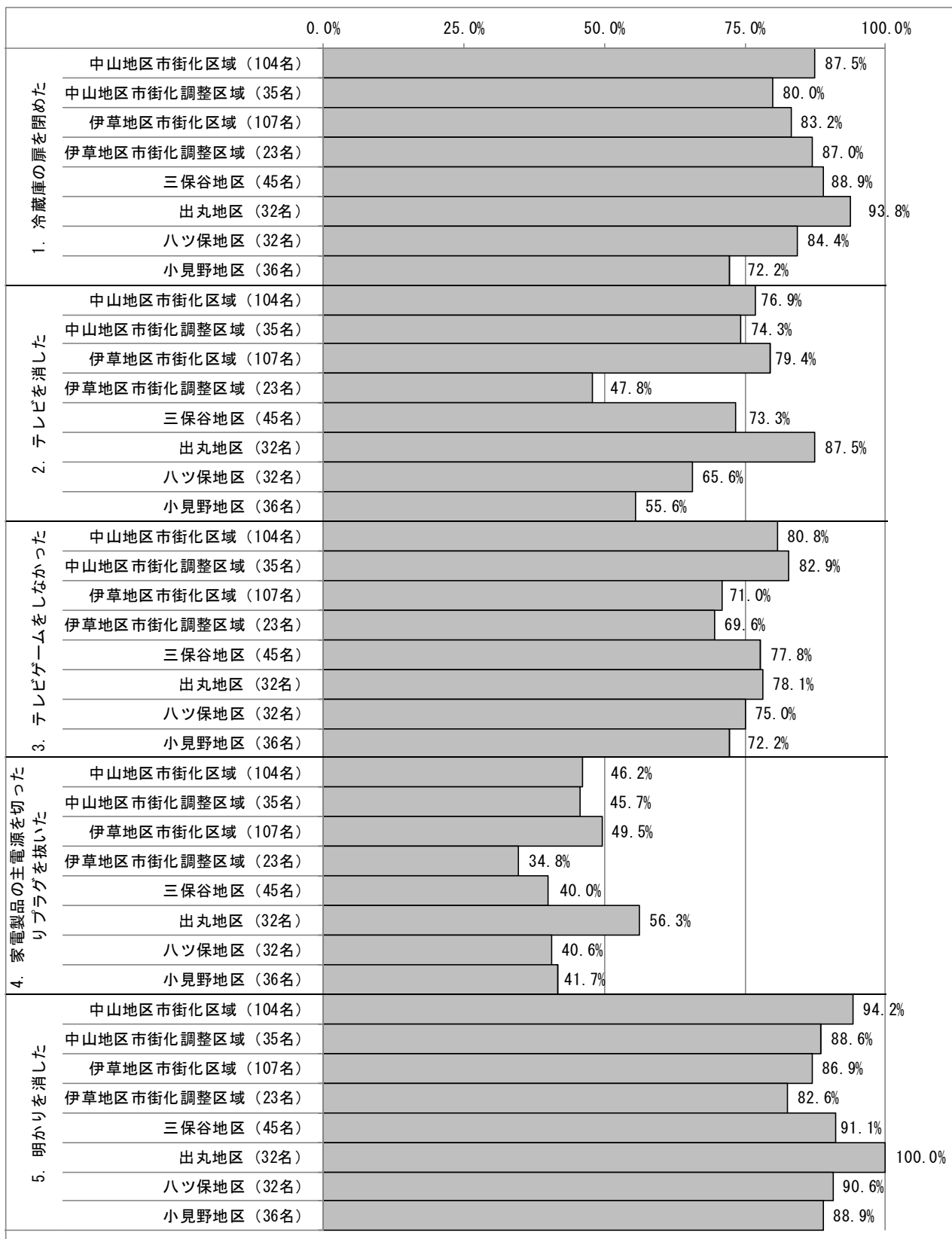
「冷蔵庫の扉は、すぐ閉めた」について、行動を行った人数の割合は、すべての地区で行った人数の割合が 70%を超えています。

「他の用事をするときは、テレビを消した」については、伊草地区市街化調整区域を除いて 50%以上ですが、その中で出丸地区が 87.5%と最も高くなっています。

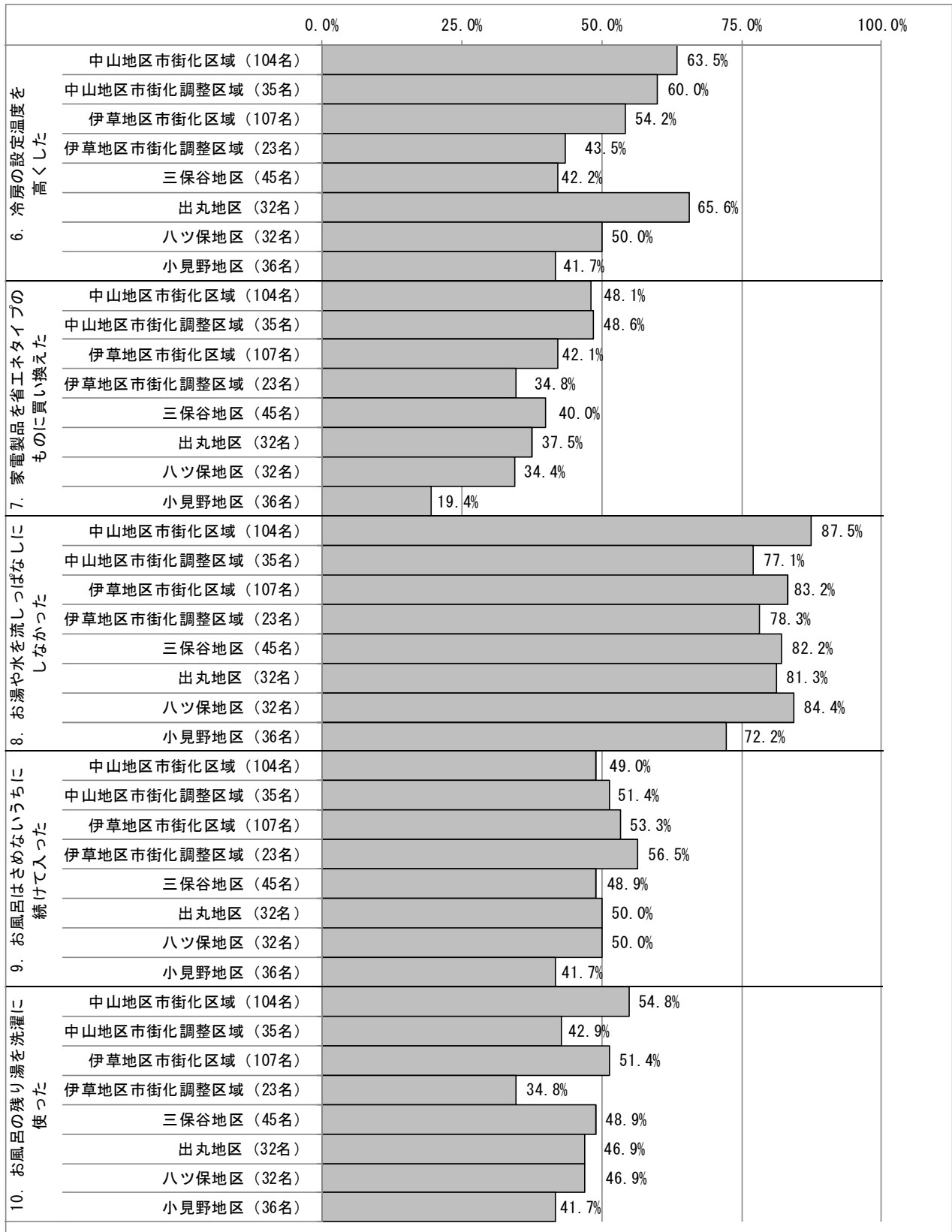
「テレビゲームをしなかった」については、すべての地区で行動を行った人数の割合が約 70～80%と高く割合を示しています。

「テレビなど家電製品を使わないときは、主電源を切ったりコンセントからプラグを抜いた」については、出丸地区では 56.3%と半数以上の回答者が行っていますが、他の地区は半数未満となっています。

「部屋を出る時は、明かりを消した」については、行動を行った人数の割合はすべての地区で 80%以上となっており、出丸地区は 100%と回答者全員が行っています。



下図は、質問項目 6～10 について、居住地区別の地球温暖化防止行動を行った人数の割合を示しています。



「冷房の設定温度をいつもより高くした」については、行動を行った人数の割合は、出丸地区が 65.6%

と最も高く、次いで中山地区市街化区域（63.5%）、中山地区市街化調整区域（60.0%）の順となっています。

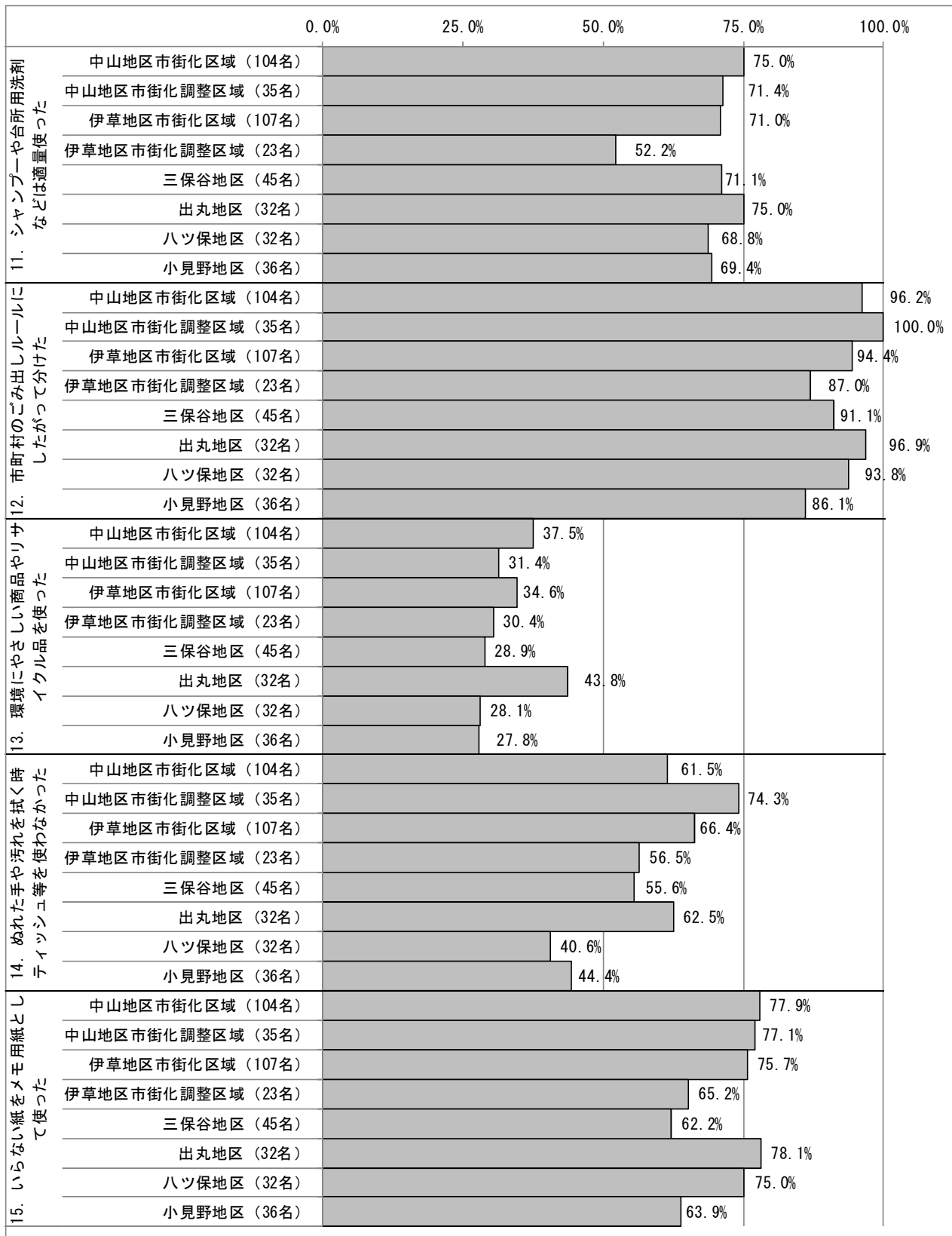
「家電製品を省エネタイプのものに買い換えた」については、行動を行った人数の割合が中山地区市街化区域と中山地区市街化調整区域で約 50%となっていますが、すべての地区で半数以下となっています。

「お湯や水を流しっぱなしにしないで、こまめにとめた」については、行動を行った人数の割合は、すべての地区で 70%以上となっています。

「お風呂はさめないうちに、みんなで続けて入った」について、行動を行った人数の割合は、すべての地区で 50%前後となっています。

「お風呂の残り湯を洗濯に使った」については、行動を行った人数の割合は、中山地区市街化区域（54.8%）と最も高く、次いで伊草地区市街化区域（51.4%）、三保谷地区（48.9%）の順となっています。

下図は、質問項目 11～15 について、居住地区別の地球温暖化防止行動を行った人数の割合を示しています。



「シャンプーや台所用洗剤などは、使いすぎず適量使った」については、すべての地域で行動を行っ

た人数の割合が50%を超えていますが、伊草地区市街化調整区域は52.2%と他の地域よりも若干低くなっています。

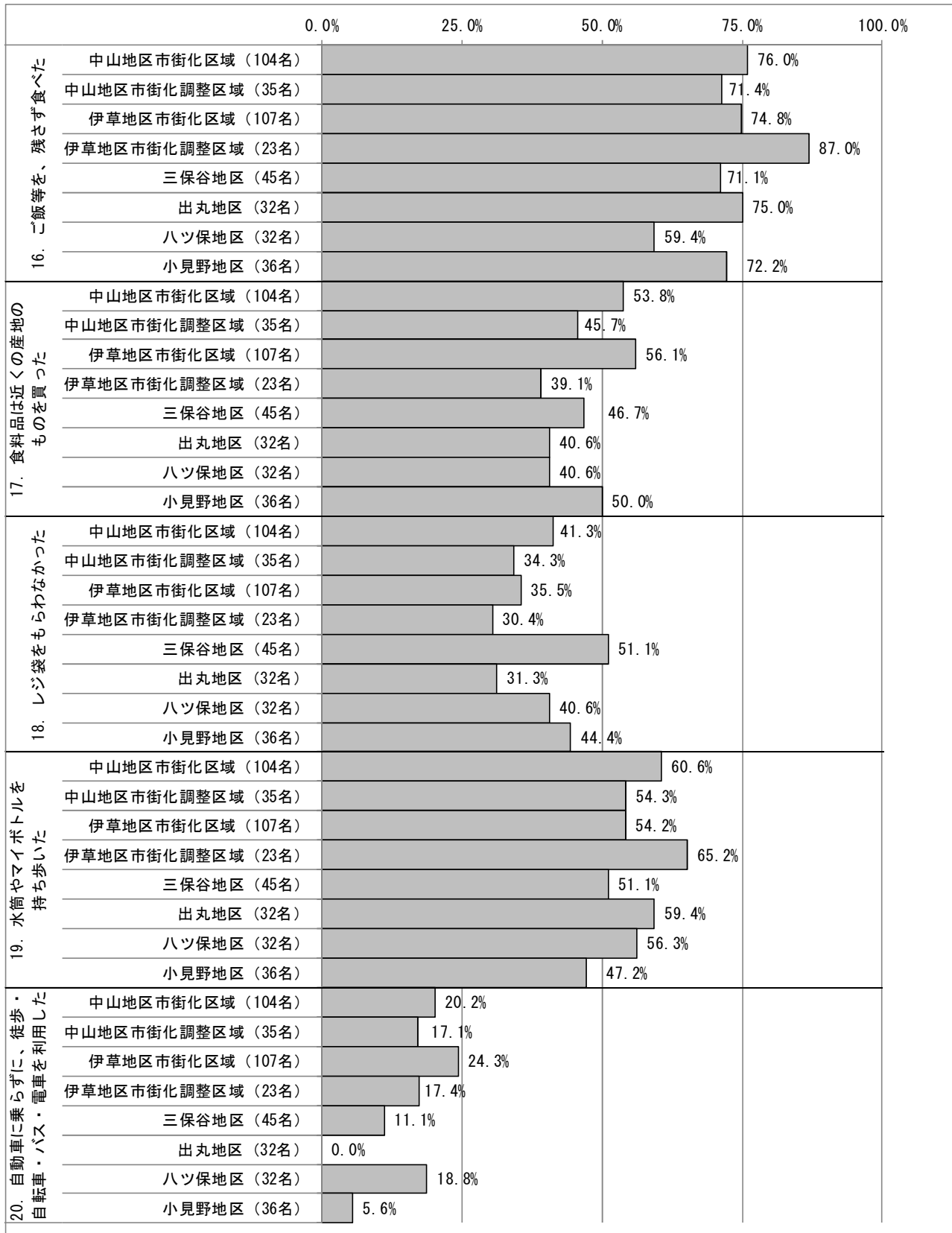
「市町村のごみ出しルールにしたがって分けた」については、行動を行った人数の割合がすべての地域で80%を超えて高くなっており、中山地区市街化調整区域は回答者全員が行っています。

「環境にやさしい商品やリサイクル品を使った」については、すべての地区で行動を行った人数の割合が半数以下となっています。

「ぬれた手や汚れを拭くとき、ペーパータオルやティッシュペーパーを使わなかった」については、行動を行った人数の割合は、中山地区市街化調整区域が74.3%と最も高く、次いで伊草地区市街化区域(66.4%)、出丸地区(62.5%)の順となっています。

「いらぬ紙をメモ用紙として使った」については、行動を行った人数の割合はすべての地域で60%以上の回答者が行っています。

下図は、質問項目 16～20 について、居住地区別の地球温暖化防止行動を行った人数の割合を示しています。



「ご飯やおかずを、残さず食べた」については、すべての地域で行動を行った人数の割合が 50%以上ですが、その中でも伊草地区市街化調整区域は 87.0%と 90%近い回答者が行っています。

「野菜などの食料品は近くの産地のものを買った」については、行動を行った人数の割合は、伊草地区市街化区域（56.1%）が最も高く、次いで中山地区市街化区域（53.8%）、小見野地区（50.0%）の順となっています。

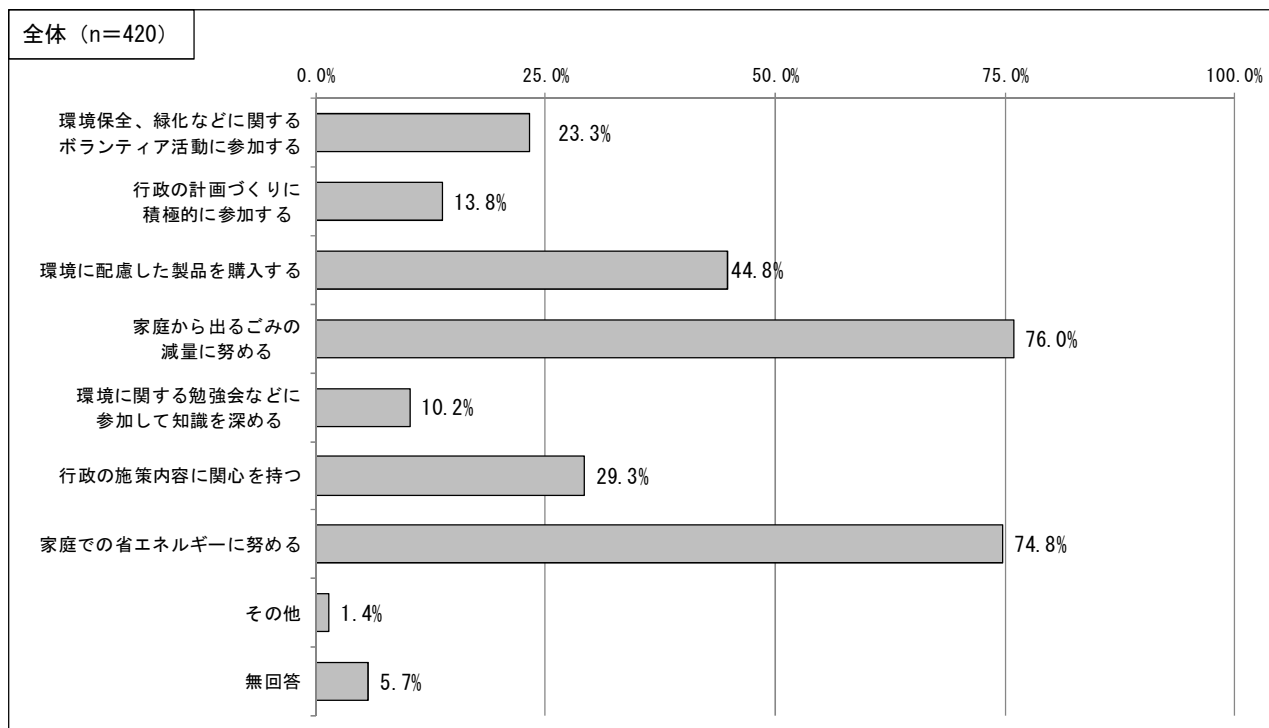
「買い物をするとき、レジ袋をもらわなかった」については、行動を行った人数の割合は、三保谷地区は 51.1%と半数を超えていますが、その他の地域では 50%以下となっています。

「出かけるときは、水筒やマイボトルを持ち歩いた」については、行動を行った人数の割合は、伊草地区市街化調整区域（65.2%）が最も高く、次いで中山地区市街化区域（60.6%）、出丸地区（59.4%）の順となっています。

「出かけるときは自動車に乗らずに、徒歩・自転車・バス・電車を利用した」については、行動を行った人数の割合がすべての地域で 30%以下となっており、最も割合が高い伊草地区市街化区域でも 24.3%となっています。

5. あなたが環境保全のために町民・事業所・行政に望むことについて

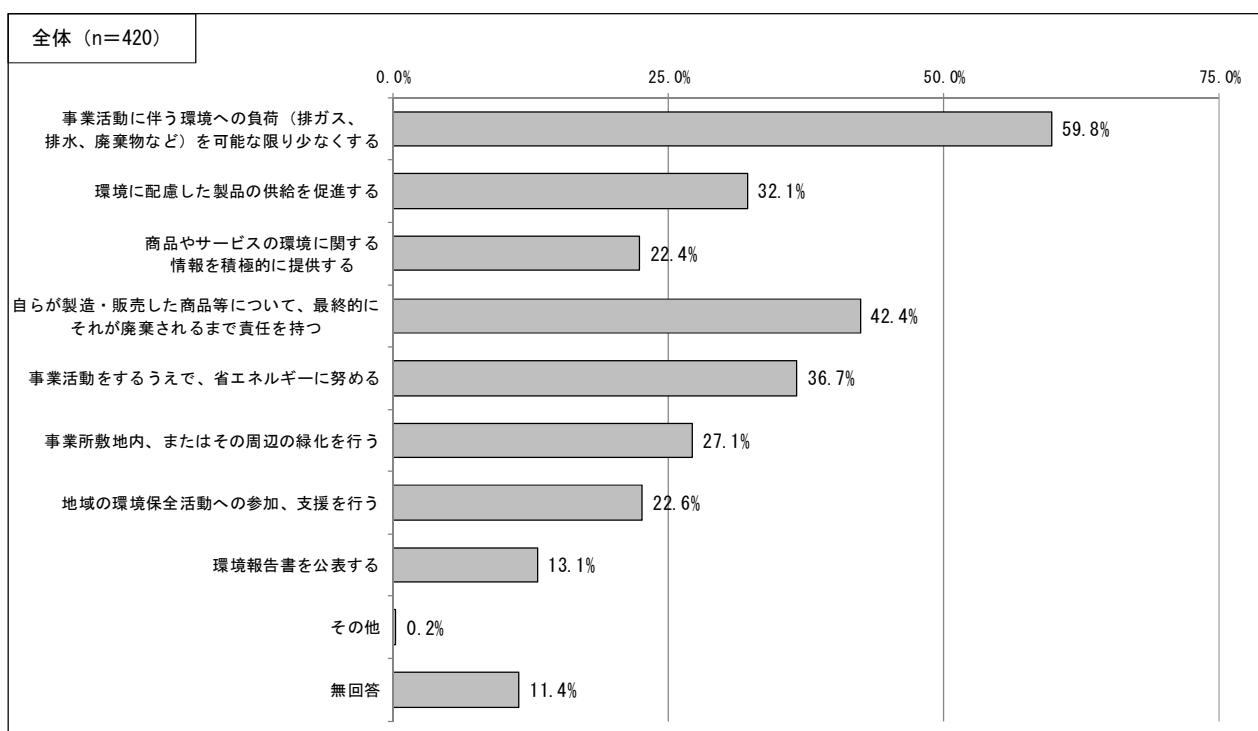
【町民が、今後行った方がよいと思うこと】



環境保全のために町民が今後行った方がよいと思うこととして、「家庭から出るごみの減量に努める」(76.0%)と「家庭での省エネルギーに努める」(74.8%)が7割を超えています。次いで「環境に配慮した製品を購入する」(44.8%)となっており、日常の生活の中で取り組むことができる内容の割合が高くなっています。

「その他」の意見として、「エコバックの推進」、「各家庭に庭先敷地に余裕があれば樹木を1本ずつ植える」、「ごみ分別作業を家族の1人だけに押し付けずに協力する」が挙げられていました。

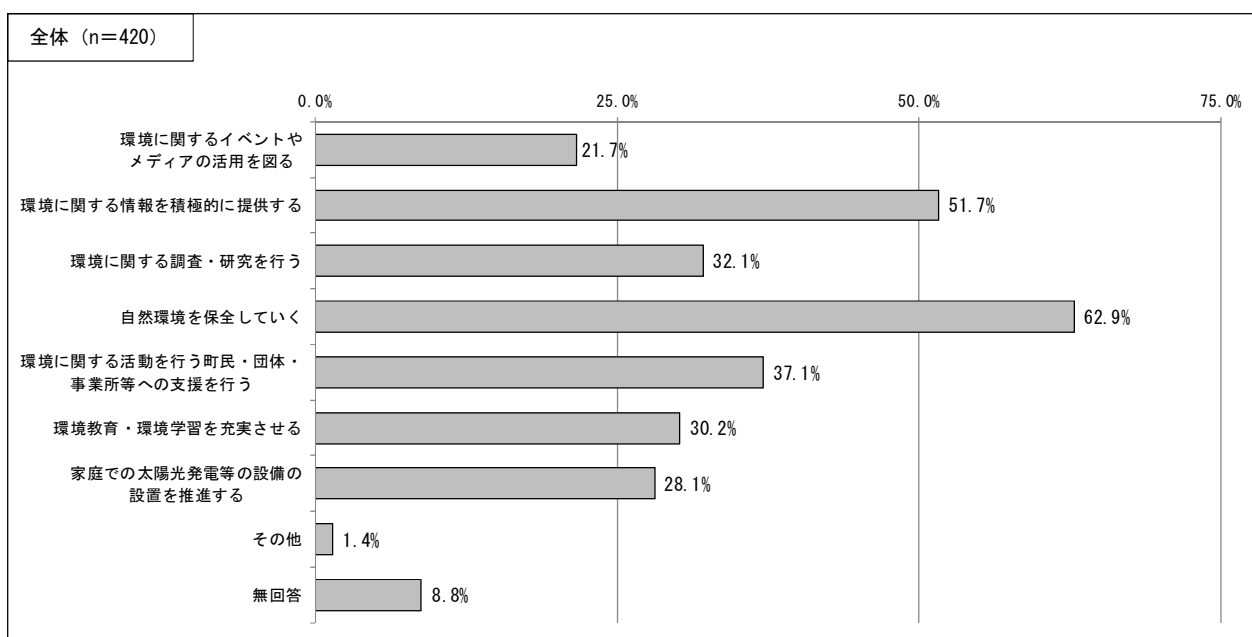
【事業所が、今後行った方がよいと思うこと】



環境保全のために事業所が今後行った方がよいと思うこととして、「事業活動に伴う環境への負荷（排ガス、排水、廃棄物など）を可能な限り少なくする」が 59.8%と最も高く、次いで「自らが製造・販売した商品等について、最終的にそれが廃棄されるまで責任を持つ」（42.4%）、「事業活動をするうえで、省エネルギーに努める」（36.7%）の順となっています。

「その他」の意見として、「業者による過剰包装の廃止」が挙げられていました。

【行政が、今後行った方がよいと思うこと】



環境保全のために行政が今後行った方がよいと思うこととして、「自然環境を保全していく」が62.9%と最も高く、次いで「環境に関する情報を積極的に提供する」(51.7%)、「環境に関する活動を行う町民・団体・事業所等への支援を行う」(37.1%)の順となっています。行政が主体となって環境保全に努めるとともに、町民等に対する情報発信・活動支援を望んでいることがわかります。

「その他」の意見として、「ISO14001を取得する。適用範囲は役所という狭い範囲だけでなく、町民を含めた全員としてダイナミックに活動する。」「電車やモノレール等の排ガスの少ない乗り物を川島町民が利用出来る環境づくりをめざす。」「大規模開発により、川島町の自然環境が大きく崩されている。町の自然を守ってもらいたい。また、廃棄物の処理等は慎重に行なっていただきたい。安易に許可を出さない等。」が挙げられていました。

6. 川島町の環境保全に関する取り組みについて

以下の項目につき意見が述べられた。詳細は付録1に示す。

ごみに関する意見

環境に関する意見

道路整備・交通に関する意見

その他